

シテ數區トナシ其一區若クハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル負擔若クハ兒童教育事務委託ノ爲  
其使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得

- 一 町村若クハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ
  - 二 町村內若クハ其一部內又ハ町村學校組合ノ一部內ノ就學スヘキ兒童ノ全部若クハ一部ノ教  
育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託スルコトヲ要スル場所數箇所アルトキ
  - 三 町村若クハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ト其一部內ノ兒童ノ全部若クハ一部  
ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託スルコトヲ要スル場所アルトキ
- 本條第一項ノ處分ヲナシ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係市及區ノ意見ヲ聞クヘシ  
本條第二項ノ處分ヲナシ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知  
事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十一條 郡長ハ第二十八條第一項ノ事情アルモ同項ニ依ルコトヲ得スト認定スルトキハ府縣  
知事ノ許可ヲ受ケ其町村ヲシテ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關ル義務ヲ免レシ  
ムルコトヲ得

郡長ハ第二十八條第二項若クハ第三項ノ事情アルモ同項ニ依ルコトヲ得スト認定スルトキハ府  
縣知事ノ許可ヲ受ケ其町村若クハ町村學校組合ヲシテ其一部ニ關シテハ尋常小學校ノ設置又ハ  
兒童教育事務ノ委託ニ關ル義務ヲ免レシムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テモ町村若クハ町村學校組合ハ特別ノ事情アルトキハ猶郡長ノ許可ヲ受ケテ尋  
常小學校ヲ設置スルコトヲ得其小學校ノ位置ハ其町村若クハ町村學校組合ニ於テ之ヲ定メ郡長  
ノ許可ヲ受クヘシ

第三十二條 郡長ハ町村學校組合ヲ解カシムルトキハ關係町村及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事

ノ許可ヲ受クヘシ

郡長ハ町村內若クハ其一部內又ハ町村學校組合ノ一部內ノ就學スヘキ學齡兒童ノ全部若クハ一  
部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託セシムルコトヲ止ムルトキハ關係町  
村町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十三條 町村ハ一町村限リノ負擔ヲ以テ尋常小學校ヲ設置スルニ比シ猶優等ナル尋常小學校  
ヲ得ヘキ場合又ハ其費用ヲ輕減シ得ヘキ場合ニ於テハ數町村ノ協議ニ依リ郡長ノ許可ヲ受ケテ  
學校組合ヲ設ケ其學校組合ニ相當スル尋常小學校ヲ設置スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ハ其學校組合ヲ設クルノ協議ヲナスノ際  
併セテ之ヲ定メ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十四條 前條ノ町村學校組合ハ郡長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ解クコトヲ得ス  
郡長ハ前條及本條ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第三十五條 府縣知事ハ市內ニ私立尋常小學校アルトキハ其市立小學校ノ設置若クハ其一部ノ設  
備ヲ猶豫シ其私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

郡長ハ町村內若クハ町村學校組合內ニ私立尋常小學校アルトキハ其町村立小學校ノ設置若クハ  
其一部ノ設備又ハ兒童教育事務委託ノ事ヲ猶豫シ其私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ  
得

私立小學校代用ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第三十六條 市町村ハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ高等小學校ヲ設置シ又ハ其區ヲシテ之ヲ設置セシム  
ルコトヲ得

第三十七條 町村ハ數町村ノ協議ニ依リ郡長ノ許可ヲ受ケテ町村學校組合ヲ設ケ府縣知事ノ許可

小學校令

ヲ受ケテ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得

郡長ハ前項ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

本條ノ學校組合ニ就キテハ第三十四條ヲ適用ス

第三十八條 第三十六條及第三十七條ノ規程ハ徒弟學校及實業補習學校ニ關シ之ヲ適用ス

第三十九條 第三十一條末項第三十三條第三十六條第三十七條及第三十八條ニ掲クル小學校ノ廢止ハ其設立ノ例ニ依ルヘシ

第四十條 市町村ハ幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校等ヲ設置スルコトヲ得

此場合ニ於テハ第三十六條第三十七條及第三十九條ノ規程ヲ適用ス

第四十一條 私立ノ小學校幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校等ノ設立ハ其設立

者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケ其廢止ハ之ヲ府縣知事ニ上申スヘシ

第四十二條 第四十條及第四十一條ノ學校等ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第五章 小學校ニ關スル府縣郡市町村ノ負擔及授業料

第四十三條 市町村立小學校ノ設置ニ關ル市町村及町村學校組合並區ノ負擔ノ概目左ノ如シ

一 校舍校地校具體操場農業練習場ノ供給及支持

二 小學校教員ノ俸給旅費等

三 小學校ニ關スル諸費

第四十四條 市町村立小學校ニ就學スル兒童ヲ保護スヘキ者ハ授業料規則ニ依リ授業料ヲ納ムヘシ

授業料ハ市町村ニ屬スル收入トス

一家ノ兒童同時ニ數名就學スルトキハ授業料ヲ減スルコトヲ得

市町村長ハ兒童ヲ保護スヘキ者貧窮ナル場合ニ於テハ授業料ノ全額若クハ一部ヲ免除スヘシ

授業料ハ物品若クハ勞力ヲ以テ之ニ代フルヲ許スコトヲ得

授業料規則ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四十五條 郡長ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキハ學校組合内ノ某町村ヲシテ其數校中ノ一校若クハ若干校ノ設置ヲ一町村限り負擔セシムルコトヲ得

郡長ハ第二十八條ニ依リ町村學校組合ヲシテ兒童教育事務ヲ委託セシムルトキハ其學校組合内

某町村ヲシテ其委託ノ事ヲ一町村限り負擔セシムルコトヲ得

本條ノ處分ヲナシ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係町村及町村學校組合ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可

ヲ受クヘシ

第四十六條 郡長ニ於テ町村學校組合ノ實力其學校組合ニ相當スル尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘ

スト認定シ又ハ町村學校組合ノ一部タル町村ノ實力其學校組合費用ノ分擔ニ堪ヘスト認定スル

トキハ郡ハ郡費ヲ以テ其學校組合若クハ町村ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第四十七條 郡長ニ於テ第二十七條ノ事情アルモ同條ニ依ルコトヲ得スト認定スルトキハ郡ハ郡

費ヲ以テ其町村ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第四十八條 府縣知事ニ於テ市ノ實力其市ニ相當スル尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定スル

トキハ府縣ハ府費ヲ以テ其市ニ相當ノ補助ヲ以テ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第四十九條 府縣知事ニ於テ郡ノ實力第四十六條又ハ第四十七條ノ補助ヲ負擔スルニ堪ヘスト認

定スルトキハ府縣ハ府費ヲ以テ其郡ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第五十條 區長並其代理者及學務委員ニ於テ國ノ教育事務ヲ執行スルカ爲ニ要スル費用ハ市町村若クハ町村學校組合ノ負擔トス但區長並其代理者及區ノ學務委員ニ關スルモノハ市町村會又ハ町村學校組合ノ議決ヲ以テ區ノ負擔トナスコトヲ得

第五十一條 郡視學ノ給料旅費退隱料等ハ郡ノ負擔トス其額及支給方法ハ郡會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受ケテ之ヲ定ムヘシ

第五十二條 小學校教員檢定委員及檢定ニ關スル費用ニシテ府縣ニ屬スルモノ並小學校教科用圖書審査委員及審査ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第六章 小學校長及教員

第五十三條 小學校教員中小學校ノ某教科目ヲ教授スル者ヲ專科教員トシ其他ノ者ヲ本科教員トス

小學校ノ教員中小學校ノ教科目ヲ補助教授シ又ハ一時教授スル者ヲ准教員トシ其他ノ者ヲ正教員トス

第五十四條 小學校ノ教員ハ小學校教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ

第五十五條 小學校教員免許狀ヲ得ルニハ檢定ニ合格スルコトヲ要ス

檢定ハ府縣ニ小學校教員檢定委員ヲ置キ之ヲ施行ス但シ某種ノ小學校教員ノ檢定ハ文部省ニ於テ之ヲ施行ス

檢定委員ノ組織權限檢定ノ科目方法受檢者ノ資格教員免許狀候補者等ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第五十六條 小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第五十七條 市町村立小學校長及教員ノ名稱及待遇法ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第五十八條 市町村立小學校長及教員ノ任用解職ハ府縣知事之ヲ行フ

第五十九條 市町村立小學校ノ教員ハ市町村町ニ於テ薦舉スル所ノ三名以下ノ候補者ニ就キ府縣知事之ヲ任スルモノトス

府縣知事ハ前項ノ候補者適當ナラスト認ムルトキハ再ヒ薦舉ヲナサシメ猶適當ナラスト認ムルトキハ薦舉ニ依ラスシテ直ニ之ヲ任スヘシ

本條第一項ノ薦舉ハ教員ノ缺員ヲ生シ又ハ新ニ其位地ヲ設ケタル日ヨリ二十八日以内ニ之ヲ施行シ第二項ノ薦舉ハ其薦舉ヲ命セラレタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ施行スヘシ若シ此期限内ニ施行セザルトキハ府縣知事ハ薦舉ニ依ラスシテ直ニ之ヲ任スヘシ

市町村立小學校長ハ府縣知事其學校ノ教員中ニ就キテ之ヲ兼任スルモノトス

第六十條 市町村立小學校教員ノ給料額及旅費額ノ標準並給料旅費其他諸給與ノ支給方法ハ府縣知事ニ於テ之ヲ規定シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ給料額及旅費額標準ノ範圍内ニ於テ教員ニ交付スヘキ給料及旅費ノ額ハ市參事會又ハ町村長ノ意見ヲ聞キ府縣知事之ヲ確定ス

市町村立小學校教員ノ給料ノ若干分ハ土地ノ使用又ハ物品ヲ以テ之ヲ換給スルコトヲ得但其步合ハ府縣知事ニ於テ之ヲ規定シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ換給スル土地ノ使用又ハ物品ノ價格ハ市町村ノ申出ニ依リ監督官廳之ヲ確定シ其確定シタル價格ハ監督官廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ訂正スルコトヲ得又監督官廳ハ前項ノ換給ヲ適當ナラスト認ムルトキハ之ヲ許サ、ルコトヲ得

第六十一條 小學校長及教員ノ職務及服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第六十二條 市町村立小學校教員ハ學務委員ニ任セラレタルトキハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第六十三條 小學校長及教員ハ兒童ニ體罰ヲ加フルコトヲ得ス

第六十四條 市町村立小學校長及教員職務ヲ粗略ニシ若クハ職務上遵奉スヘキ指命ニ違背シ又體面ヲ汚辱スルノ行爲アルトキハ府縣知事懲戒處分ヲ行フヘシ其處分ハ罷免職免許狀褫奪トス

私立小學校長及教員ニシテ前項ノ行爲アルトキハ其情狀ニ依リ府縣知事ニ於テ其業務ヲ停止シ又ハ免許狀ヲ褫奪スヘシ

免職若クハ業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ニ不服アル者ハ十四日以内ニ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得

市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ニ關スル規則並私立小學校長及教員ノ業務停止及免許狀褫奪ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第六十五條 小學校教員禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用若クハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキハ其職ヲ失ヒ免許狀ヲ褫奪セラル、モノトス

第七章 管理及監督

第六十六條 郡ニ郡視學一名ヲ置キ府縣知事之ヲ任免ス

郡視學ハ府縣稅ヲ以テ支辨スル郡吏員ト同一ノ待遇ヲ受クルモノトス

第六十七條 郡視學ハ郡長ノ指揮命令ヲ受ケテ郡内ノ教育事務ヲ監督ス

第六十八條 府縣知事ハ郡ノ申出ニ依リ特ニ郡視學ヲ置カサルコトヲ得此場合ニ於テハ府縣知事ハ府縣稅ヲ以テ支辨スル郡吏員ノ一名ニ命シテ郡視學ノ名義ヲ以テ其職務ヲ行ハシム

第六十九條 郡視學ニ對スル懲戒處分ハ官吏懲戒例ニ依リ府縣知事之ヲ行フ

第七十條 市町村長ハ市町村ニ屬スル國ノ教育事務ヲ管掌シ市町村立小學校ヲ管理ス但學校長若クハ首席教員ノ管理ニ屬スル事務ハ之ヲ監督ス

第七十一條 市町村長ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ市制第二百二十四條市制第二百二十八條ヲ適用ス

第七十二條 市ハ教育事務ノ爲市制第六十一條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但市會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

委員ニハ市立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス其數ハ委員總數ノ四分一ニ下ルコトヲ得ス

委員中教員ヨリ出ツル者ハ市長之ヲ任免ス

第七十三條 市ノ學務委員ハ市ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ市長ヲ補助ス

第七十四條 府縣知事ハ市ノ區長及其代理者ヲシテ市長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第七十五條 市ハ教育事務ノ爲市條例ノ規程ニ依リ市内ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得

委員ニハ市立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス

第七十六條 府縣知事ハ前條ノ學務委員ヲシテ其區ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ市長區長並其代理者ヲ補助セシムルコトヲ得

第七十七條 市ノ區長及其代理者並第七十二條及第七十五條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ左ノ例ニ依ル

一 市制第六十四條第五ノ規程ニ依リ市長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ此場合ニ於テハ市制第二百二十四條第一ノ規程ヲ適用ス

二 市制第二百二十四條第一項及第二項第二第三第四ノ規程ヲ適用ス

第七十八條 第七十三條及第七十六條ノ事務執行ニ關スル市長區長及其代理者並學務委員ノ關係及其他必要ナル規則ハ府縣知事之ヲ定ムルコトヲ得

第七十九條 町村ハ教育事務ノ爲メ町村制第六十五條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

委員ニハ町村立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス其數ハ委員總數ノ四分一ニ下ルコトヲ得ス  
委員中教員ヨリ出ツル者ハ町村長之ヲ任免ス

第八十條 町村ノ學務委員ハ町村ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ町村長ヲ補助ス

第八十一條 府縣知事ハ町村ノ區長及其代理者ヲシテ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第八十二條 町村ハ教育事務ノ爲メ町村條例ノ規程ニ依リ町村内ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得

委員ニハ町村立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス

第八十三條 府縣知事ハ前條ノ學務委員ヲシテ其區ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ町村長區長並其代理者ヲ補助セシムルコトヲ得

第八十四條 町村ノ區長及其代理者並第七十九條及第八十二條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ左ノ例ニ依ル

一 町村制第六十八條第五ノ規程ニ依リ町村長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ此場合ニ於テハ町村制第二百二十八條第二項第一ノ規程ヲ適用ス

二 町村制第二百二十八條第一項及第二項第二第三第四ノ規程ヲ適用ス

第八十五條 第八十條及第八十三條ノ事務執行ニ關スル町村長區長及其代理者並學務委員ノ關係及其他必要ナル規則ハ府縣知事之ヲ定ムルコトヲ得

第八十六條 町村學校組合ハ教育事務ノ爲メ條例ノ規程ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ

町村學校組合ハ教育事務ノ爲メ條例ノ規程ニ依リ學校組合内ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得

本條ノ委員ニハ町村立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス

第八十七條 町村學校組合ノ學務委員ハ町村學校組合ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ組合長ヲ補助ス

府縣知事ハ町村學校組合内ノ區ノ學務委員ヲシテ區ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ組合長ヲ補助セシムルコトヲ得

第八十八條 第八十六條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ左ノ例ニ依ル

一 町村制第六十八條第五ノ規程ニ依リ組合長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ此場合ニ於テハ町村制第二百二十八條第二項第一ノ規程ヲ適用ス

二 町村制第二百二十八條第一項及第二項第二第三第四ノ規程ヲ適用ス

第八十九條 第八十七條ノ事務執行ニ關スル組合長及學務委員ノ關係及其他必要ナル規則ハ府縣知事之ヲ定ムルコトヲ得

第九十條 特別ノ事情アル町村若クハ町村學校組合ニ於テハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ學務委員ヲ置カサルコトヲ得

第九十一條 文部大臣ハ私立小學校ニシテ法律命令ノ規程ニ戻ルモノアルトキハ府縣知事ニ命ジテ之ヲ閉鎖セシムルコトヲ得

第九十二條 前諸條ニ掲グル教育事務トハ専ラ小學校教育ノ範圍ニ屬スル事務ヲ謂フ

第八章 附則

小學校令

第九十三條 本令ハ市制町村制ヲ施行シタル府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ文部大臣之ヲ定ム

第九十四條 幼稚園圖書館官立學校其他小學校ニ類スル各種學校等ニ就キテハ本令ノ規程ヲ適用スルコトヲ得但尋常小學校設置ノ義務就學ノ義務等ニ關スル規程ハ此限ニ在ラス

第九十五條 本令ニ依ラスシテ授與シタル小學校教員免許狀ハ仍其効力ヲ有スルモノトス但正教員准教員ノ別ハ文部大臣之ヲ定ム

第九十六條 明治十九年四月勅令第十四號小學校令其他本令ニ牴觸スル成規ハ本令施行ノ府縣ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

○市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法 明治二十三年十月二日 法律第九十號

朕市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法

第一條 市町村立小學校ノ正教員ハ此法律ノ規定ニ從ヒ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 在職滿十五年以上ノ者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ終身退隱料ヲ給ス  
一 年齡六十歳ヲ超ヘ退職ヲ命シタルトキ

二 傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

三 廢校ニ依リ退職シ又ハ學校編制ノ變更ニ依リ退職ヲ命シタルトキ

第三條 左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身退隱料ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ増加退隱料ヲ給ス  
一 職務ニ依リ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

二 職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

第四條 官吏恩給法第五條第一項第四項第六條第十一條ハ退隱料ニ適用ス

退隱料等ノ支給上ニ關スル在職年數ノ算定ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 退隱料ヲ受クル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ失フモノトス  
一 失職ニ該當スヘキ現職中ノ所爲確定シタルトキ

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ

第四條 第二條第三條若クハ第七條ニ依リ退隱料ヲ受クル者復タヒ其職務ニ堪フルニ至ルコトアルモ仍府縣知事ヨリ指命セラル、所ノ教職ニ就カサルトキ又ハ第二條第三ニ依リ退隱料ヲ受クル者府縣知事ヨリ指命セラル、所ノ教職ニ就カサルトキ但其給料ハ退職現時ノ給料ヨリ少額ナラス且年齡未タ六十歳ニ至ラサル場合ニ限ル

五 府縣知事ノ許可ヲ經スシテ公務ニ就キタルトキ

退隱料ヲ受クル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其時間退隱料ヲ受クルコトヲ得ス  
一 公務ニ就キ退職現時ノ給料額ト同額以上ノ給料ヲ受クルトキ

二 三箇年以上受領ヲ怠リタルトキ

三 公權ヲ停止セラレタルトキ

第六條 年齢未タ六十歳ニ至ラスニテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者ハ退職料ヲ受クルノ資格ヲ失フモノトス

第七條 市町村立小學校ノ准教員ハ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ第三條ニ該當スル者ニ限リ退職現時ノ給料四分ノ一ノ退職料ヲ終身給與ス

第八條 在職滿五年以上十一年未滿ニシテ退職シタル市町村立小學校正教員ハ退職現時ノ給料二箇月分ニ當ル金員ヲ給シ其滿十一年以上十五年未滿ニシテ退職シタル者ハ給料三箇月分ニ當ル金員ヲ給ス

第二條第三條又ハ第七條ニ依リ退職料ヲ受クル者自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者又ハ前項ノ給與ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇月内ニ之ヲ請求セサル者ハ前項ノ限ニ在ラス

自己ノ便宜ニ依リ本條第一項ノ給與ヲ受ケサル者他日市町村立小學校正教員ノ職ニ就クトキハ前ノ在職年數ヲ以テ退職料等ノ給與上ニ關スル在職年數ニ算入スヘキモノトス但其給與ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇月内ニ之ヲ受ケサルコトヲ申立テサル者ハ本文ノ限ニ在ラス

第九條 退職料ノ支給及第八條ノ給與ハ市町村長ノ證明ニ依リ府縣知事之ヲ裁定ス

官吏恩給法第十六條及第十八條ハ退職料ニ適用ス

第十條 市町村立小學校正教員左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定ニ從ヒ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

一 在職十五年以上ノ者在職中死去シタルトキ

二 在職十五年未滿ノ者職務ノ爲死去シタルトキ

三 退職料ヲ受クル者死去シタルトキ

第十一條 官吏遺族扶助法第四條第一項第二項第五條乃至第十條第十二條乃至第十六條ハ此法律ニ規定スル扶助料ニ適用ス

官吏遺族扶助法第十一條ハ此法律ニ規定スル扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戸籍内ニ在ル二十歳未滿又ハ癡疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキ場合ニ適用ス

第十二條 在職十五年未滿ノ市町村立小學校正教員在職中職務ノ故ニアラスシテ死去シタルトキハ其遺族ニ一時扶助金ヲ給ス

前項ノ扶助金ハ在職三年未滿ニシテ在職最終ノ給料一箇月分ニ當ル金員トシ三年以後滿一年毎ニ給料年額百分ノ二ニ當ル金員ヲ加フ

第十三條 扶助料及扶助金ノ支給並第八條及第十一條第二項ノ給與ハ市町村長ノ申議ニ依リ府縣知事之ヲ裁定ス

第十四條 府縣ハ小學校教員恩給基金ヲ備フヘキモノトス

市町村ハ其市町村立小學校ニ在職スル正教員ノ給料額百分ノ一ニ當ル金員ヲ毎年其府縣ニ納ムヘキモノトス

市町村立小學校正教員ハ其給料額百分ノ一ニ當ル金員ヲ毎年其府縣ニ納ムヘキモノトス

本條第二項及第三項ノ納金ハ府縣小學校教員恩給基金ト爲スヘシ

恩給基金ハ其利子ヲ以テ退職料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得サルモノトス

本條第三項第三項ニ依リ各府縣ニ於テ收入シタル納金額四分ノ一ニ當ル金員ヲ收入年度ノ翌々年度毎ニ國庫ヨリ府縣ニ給與スルモノトス

退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ハ恩給基金ノ利子及國庫ノ給與金其他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘキモノトス

恩給基金ノ管理並退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ノ支給等ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

恩給基金ノ管理並退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ノ支給等ニ關スル費用ハ總テ府縣ノ負擔トス

第十五條 此法律中第一條乃至第十三條ハ明治二十六年度ヨリ第十四條ハ明治二十五年年度ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 府縣制郡制又ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ此法律ノ條規ニ對シ特例ヲ設クルコトヲ必要トスルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

### ○府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法

明治二十三年十月二日  
法律第九十一號

朕府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法

第一條 府縣立師範學校長ノ俸給ハ國庫ノ負擔トス

第二條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員ハ此法律ノ規定ニ從ヒ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第三條 在職滿十五年以上ノ者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ終身退隱料ヲ給ス

一 年齡六十歳ヲ超ヘ退職ヲ命シタルトキ

二 傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

三 癡校ニ依リ退職シ又ハ學校編制ノ變更ニ依リ退職ヲ命シタルトキ

第四條 左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身退隱料ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ増加退隱料ヲ給ス

一 職務ニ依リ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者コシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

二 職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者コシテ其職務ニ堪サルカ爲退職ヲ命シタルトキ

第五條 官吏恩給法第五條第一項第四項第五項第六條及第十一條ハ退隱料ニ適用ス

第六條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員ニ準スヘキ官立公立學校職員ヨリ府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員ニ轉シタル者ハ該官立公立學校ニ於ケル勤務ノ年數ヲ退隱料等ノ給與上在職年數ニ算入スヘキモノトス其在職年數ノ算定ニ關スル規則並府縣立師範學校

及公立中學校ノ學校長正教員ニ準スヘキ官立公立學校職員ト認ムヘキ者ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 退隱料ヲ受クル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ失フモノトス  
一 失職ニ該當スヘキ現職中ノ所爲確定シタルトキ



二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ

四 第三條第二第四條若クハ第九條ニ依リ退隱料ヲ受クル者復タヒ其職務ニ堪フルニ至ルコトアルモ仍官ヨリ指命セラレ、所ノ教職ニ就カサルトキ又ハ第三條第三ニ依リ退隱料ヲ受クル者官ヨリ指命セラレ、所ノ教職ニ就カサルトキ但其俸給ハ退職現時ノ俸給ヨリ少額ナラス且年齢未タ六十歳ニ至ラサル場合ニ限ル

五 府縣知事ノ許可ヲ經スシテ公務ニ就キタルトキ

退隱料ヲ受クル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其時間退隱料ヲ受クルコトヲ得ス

一 公務ニ就キ退職現時ノ俸給額ト同額以上ノ給料ヲ受クルトキ

二 三箇年以上受領ヲ怠リタルトキ

三 公權ヲ停止セラレタルトキ

第八條 年齢未タ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者ハ退隱料ヲ受クルノ資格ヲ失フモノトス

第九條 府縣立師範學校及公立中學校ノ准教員ハ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ第四條ニ該當スル者ニ限リ退職現時ノ俸給四分ノ一ノ退隱料ヲ終身給與ス

第十條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員在職滿一年以上五年未滿ニシテ退職シタル者ハ退職現時ノ俸給一箇月分ニ當ル金員ヲ給シ其滿五年以上十一年未滿ニシテ退職シタル者ハ俸給二箇月分ニ當ル金員ヲ給シ其滿十一年以上十五年未滿ニシテ退職シタル者ハ俸給三箇月分ニ當ル金員ヲ給ス

第三條第四條又ハ第九條ニ依リ退隱料ヲ受クル者自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處

セラレ若クハ失職ニ該當シタル者又ハ前項ノ給與ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇月内ニ之ヲ請求セサル者ハ前項ノ限ニ在ラス

自己ノ便宜ニ依リ本條第一項ノ給與ヲ受ケサル者他日府縣立師範學校及公立中學校長正教員ノ職ニ就クトキハ前ノ在職年數ヲ以テ退隱料等ノ給與上ニ關スル在職年數ニ算入スヘキモノトス但其給與ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇月内ニ之ヲ受ケサルコトヲ申立サル者ハ本文ノ限ニ在ラス

本條ノ給與及之ニ關スル費用ハ退職者ノ退職ノ際勤務セシ學校所屬府縣郡市町村ノ負擔トス

第十一條 退隱料ノ支給ハ府縣知事ノ證明ニ依リ文部大臣之ヲ裁定ス

官吏恩給法第十六條及第十八條ハ退隱料ニ適用ス

第十二條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定ニ從ヒ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

一 在職十五年以上ノ者在職中死去シタルトキ

二 在職十五年未滿ノ者職務ノ爲死去シタルトキ

三 退隱料ヲ受クル者死去シタルトキ

第十三條 官吏遺族扶助法第四條乃至第十條第十二條乃至第十六條ハ此法律ニ規定スル扶助料ニ適用ス

官吏遺族扶助法第十一條ハ此法律ニ規定スル扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戸籍内ニ在ル二十歳未滿又ハ癩疾若クハ不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキ場合ニ適用ス

第十四條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員ニシテ在職十五年未滿ノ者在職中職務ノ

府縣立師範學校長俸給及公立學校職員退隱料及遺族扶助料法

故ニアラスンテ死去シタルトキハ其遺族ニ一時扶助金ヲ給ス

前項ノ扶助金ニ就キテハ官吏遺族扶助法第十七條第二項ヲ適用ス

第十五條 扶助料及扶助金ノ支給並第十三條第二項ノ給與ハ府縣知事ノ申牒ニ依リ文部大臣之ヲ裁定ス

第十六條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員ハ其俸給百分ノ一ヲ毎年國庫ニ納ムヘシ  
府縣郡市町村ハ其府縣立師範學校及公立中學校長正教員ノ俸給百分ノ一ニ當ル金員ヲ毎年國庫ニ納ムヘシ

第十七條 退隱料扶助料扶助金及第十三條第二項ノ給與並其支給ニ關スル費用ハ國庫ノ負擔トス

退隱料扶助料扶助金等ノ支給ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十八條 同一人ニシテ國庫ヨリ二種以上ノ退隱料又ハ扶助料ヲ受クヘキ者アルトキハ本人ノ所擇ニ任セ其一ヲ給スルモノトス

第十九條 府縣立師範學校及公立中學校書記ノ退隱料等ハ府縣知事郡長市町村長ニ於テ府縣郡市町村會ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムルコトヲ得

府縣立師範學校及公立中學校並市町村立小學校コアラサル公立學校職員ノ退隱料等ハ前項ノ例ニ依ル

本條ノ退隱料等及其支給ニ關スル費用ハ其府縣郡市町村ノ負擔トス

第二十條 此法律第一條ハ明治二十五年ヨリ第二條乃至第十九條ハ明治二十六年ヨリ之ヲ施行ス

第二十一條 府縣制郡制又ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ此法律ノ條規ニ對シ特例ヲ設クルコトヲ必要トスルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

### 社寺

○神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ等級ヲ進退スルコトヲ管長ニ委スル件明治十七年八月十一日太政官布達第十九號

自今神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ等級ヲ進退スルコトハ總テ各管長ニ委任シ更ニ左ノ條件ヲ定ム

第一條 各宗派妄ニ分合ヲ唱ヘ或ハ宗派ノ間ニ爭論ヲ爲ス可ラス

第二條 管長ハ神道各派ニ一人佛道各宗ニ一人ヲ定ム可シ

但事宜ニ因リ神道ニ於テ數派聯合シテ管長一人ヲ定メ佛道ニ於テ各派管長一人ヲ置クモ妨ケナシ

第三條 管長ヲ定ム可キ規則ハ神佛各其教規宗制ニ由テ之ヲ一定シ内務卿ノ認可ヲ得可シ

第四條 管長ハ各其立教開宗ノ主義ニ由テ左項ノ條規ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ得可シ

一 教規

一 教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事

一 教師ノ等級進退ノ事

一 以上神道管長ノ定ム可キ者トス

一 宗制

一 寺法

一 僧侶並ニ教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事

一 寺院ノ主職任免及教師ノ等級進退ノ事

神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ等級ヲ進退スルコトヲ管長ニ委スル件

一寺院ニ属スル古文書寶物什器ノ類ヲ存スル事

一以上佛道管長ノ定ムヘキ者トス

第五條 佛道管長ハ各宗制ニ依テ古來宗派ニ長タル者ノ名稱ヲ取調ヘ「内務卿」ヲ認可ヲ得テ之レヲ稱スルコトヲ得

○神佛各教宗派内ノ者出願處分ヲ要スルトキ願書差出方

明治廿二年五月廿五日  
内務省訓令第二十二號

神佛各教宗派内ノ者其教宗派ノ事務ニツキ當省ニ出願處分ヲ要スヘキモノハ管長ヲ經由出願セシムヘシ但シ管長其手續ヲ拒ミタルトキハ其次第ヲ具シ本人ヨリ願書ヲ直ニ當省ニ差出スコトヲ得

官有財産管理並土地處分

○官有財産管理規則

明治廿三年十一月廿四日  
勅令第二百七十五號

朕官有財産管理規則ヲ裁可シ茲コ之ヲ公布セシム

官有財産管理規則

第一條 此ノ規則ニ於テ官有財産ト稱スルハ國ノ所有ニ属スル土地、森林、原野、營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物トス

第二條 官有財産ハ主管ノ各省大臣之ヲ管理ス

第三條 官有財産ノ賣拂、讓與、交換及貸付ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外總テ此ノ規則ニ依ルヘシ

第四條 官有財産賣拂代金ハ其ノ財産引渡ノ際一時ニ納付セシムヘシ

第五條 官有財産ヲ貸付スルトキハ其ノ貸付料ヲ徴收スヘシ但シ公益ノ爲官有財産ヲ貸付シ又ハ

森林經濟ノ爲森林ヲ貸付スルトキハ別ニ主管大臣ノ定ムル所ノ規則ニ依ル

第六條 官有財産ノ貸付料ハ每年前納セシムヘシ若シ前納スル能ハサルトキハ相當ノ保證ヲ出サシムヘシ

貸付財産ノ修理其ノ他ノ費用ヲ負擔スル方法ハ貸付契約ヲ爲ストキ之ヲ定ムヘシ

第七條 官有財産ノ貸付ハ左ノ期限ヲ超ユルコトヲ得ス

第一 樹木培養ニ供スル土地ハ八十年以内

第二 農工其ノ他ノ營業及住居ニ供スル土地ハ三十年以内

第三 土地森林ノ使用權ハ十五年以内

神佛各教宗派内ノ者出願處分ヲ要スルトキ願書差出方  
官有財産管理規則

第四 右ニ掲ケサル物件ハ三年以内

第八條 官有財産ノ貸付期限中政府ニ於テ之ヲ國ノ使用ニ供スルノ必要アルトキハ貸付ノ契約ヲ解キ之ヲ返還セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ借受人ハ其ノ直接ニ受ケタル損失ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第九條 官有財産ノ借受人ニシテ主管大臣ノ許可ヲ得スシテ其ノ財産ノ原形ヲ變シ若ハ故意怠慢ニ由リ之ヲ荒廢ニ歸シ又ハ毀損亡失シタルトキハ主管大臣ハ其ノ損失ヲ賠償セシムヘシ

第十條 官有財産ノ借受人ハ主管大臣ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其ノ財産ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十一條 官有財産ヲ以テ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ルハ同一種類ノ財産ニシテ少クトモ評定價格相均キモノニ限ル

森林、原野、田畑ハ同一種類ノ財産ト見做スコトヲ得

營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物ハ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十二條 府縣郡市町村公共ノ道路、公園、市場、河川並木敷、堤塘、溝渠等ノ用ニ供スル爲官有ノ土地森林ヲ必要トスルトキハ主管大臣ニ於テ之ヲ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコトヲ得

第十三條 府縣郡市町村ニ於テ新ニ道路、公園、市場、河川並木敷、堤塘、溝渠等ヲ開設シ爲ニ不用ニ歸シタル官有ノ舊同種類ノ土地ハ内務大臣ニ於テ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコトヲ得但シ官林内若ハ官廳使用地内ニ包含セルモノ又ハ他ノ官有財産保護上離權シ難キモノハ此ノ限ニアラス

第十四條 官有財産ヲ賣拂貸付若ハ交換スル場合ニ於テ其ノ財産ヲ管理シ若ハ其ノ取扱ヲ爲ス官吏ハ之ヲ買受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十五條 此ノ規則施行ノ前ニ官有財産ノ賣拂若ハ貸付ノ契約ヲ爲シタルモノハ其ノ契約ノ滿期マテ總テ舊契約ニ依ルヘシ

第十六條 各省大臣ハ每十年其ノ年三月卅一日ニ現在スル所管官有財産ノ目錄ヲ調製シ其ノ年開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル所管官有財産ノ増減異動報告書ヲ調製シ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 第十六條ノ目錄及第十七條ノ報告書ハ其事由ニ依テ區別シ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 買入ニ係ルモノハ其ノ代價

第二 賣拂ニ係ルモノハ各應ニ於テ定メタル最低賣價、實際ノ賣拂代價及目錄價格アルモノハ其ノ價格

第三 讓與交換又ハ亡失毀損等ニ係ルモノハ其ノ目錄價格

第四 交換ニ係ルモノハ其ノ交換ニ由テ得タル財産

第五 買入又ハ賣拂ノ契約ニ特別ノ條件アルモノハ其ノ條件

第十九條 此ノ規則第十六條ニ掲クル官有財産ノ目錄ニシテ第一回ノモノハ明治廿四年三月三十一日ノ現在高ヲ以テ同年六月三十日マテニ之ヲ調製スヘシ但シ調査未濟ノ官有財産ハ調査ヲ了ルマテ其ノ概算ヲ目錄ニ掲クヘシ

第二十條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

○官有地取扱規則 明治二十三年十一月二十四日 勅令第二百七十六號

朕官有地取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有地取扱規則

- 第一條 官有地ノ賣買讓與交換及貸付ハ内務大臣之ヲ處理ス
- 第二條 官有地ニ關スル願書ノ指令契約ノ締結登記ノ請求收入ノ徵收及收納並訴訟ハ内務大臣地方長官ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ
- 第三條 各廳ニ於テ官有地ヲ使用セントスルトキハ内務大臣ニ請求スヘシ
- 第四條 各廳ノ使用地不用ニ歸シタルトキハ内務大臣ニ還付スヘシ
- 第五條 甲乙兩廳ノ間ニ於テ官有地ノ使用ヲ移サントスルトキハ内務大臣其手續ヲ爲スヘシ
- 第六條 各廳ノ所用ニ供スル爲メ民有地ヲ寄付セントスルモノアルトキハ内務大臣受納ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第七條 官有地ヲ開墾セントコトヲ請フモノアルトキハ無料ニテ之ヲ貸付スヘシ但開墾成功ノ後事業者ニ於テ該地ヲ拂下ケントスルトキハ豫メ契約ニ依テ其代價ヲ定メ置クヘシ
- 第八條 官有地ト民有地ノ交換ハ兩地ノ坪數及價格相均シキモノニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
- 第九條 借地人ハ特ニ許可ヲ受クルニアラサレハ其地ヲ當初借用ノ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス
- 借地人前項ノ規定ニ違反スルトキハ地方官長ハ其使用ヨリ生シタル損害ヲ賠償セシメ返地ヲ命スルコトヲ得

- 第十條 借地人官ノ許可ヲ得テ土地ノ原形ヲ變シタルトキハ借地満期ニ至リ自費ヲ以テ之ヲ原形ニ復シ返納スヘシ但特ニ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス
- 第十一條 官ニ屬スル公有地及公有水面ハ其公用ヲ廢シタルニアラサレハ賣拂讓與交換又ハ貸付スルコトヲ得ス但公衆ノ妨害トナラサル限りハ公用ニ供シタル儘有料又ハ無料ニテ特ニ其使用ヲ許スコトヲ得
- 第十二條 官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テ民有地ト爲サンコトヲ請フモノアルトキハ公衆ノ妨害トナラサル部分ニ限り之ヲ許スコトヲ得
- 第十三條 官ニ屬スル私有水面ノ賣拂讓與交換貸付及使用ハ本令ニ定ムル土地ノ規定ニ準據スヘシ
- 第十四條 隨意ノ契約ニ依リ官ニ屬スル土地又ハ水面ノ賣拂讓與交換又ハ有料貸付有料使用ヲ爲サントスルトキハ地方官其評價ヲ爲サシムヘシ
- 既ニ貸付シ又ハ使用セシメタル土地又ハ水面ヲ引續キ貸付シ又ハ使用セシムル場合ニ於テモ亦前項ヲ準用ス
- 第十五條 官有地ニ關スル事項ニシテ本令ニ規定セサルモノハ官有財産管理規則ニ依ル
- 第十六條 本令ハ勅令ヲ以テ特ニ規定シタルモノ及官有森林原野ニ適用セス
- 第十七條 官有地嶺根ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十八條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

○官有地特別處分規則 明治廿三年七月廿一日 勅令第三百三十五號

朕官有地特別處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有地特別處分規則

第一條 內務大臣ハ左ノ場合ニ限リ官有地ヲ競争ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣渡スコトヲ得

一 直接公用ニ供スル爲又ハ公共ノ利益トナル事業ノ爲府縣郡市町村及公共組合又ハ其他ノ起業者ニ官有地ヲ貸渡又ハ賣渡スコトキ

二 不用ニ屬スル官有地一箇所ノ坪數百五十坪ニ滿タス其評定價格二百圓以内ノモノヲ賣渡又ハ其貸渡料一箇年五圓以内ニシテ貸渡期限五箇年以内ノモノヲ貸渡スコトキ但望人二名以上アルトキハ此限ニアラハ

三 鑛山ニ於ケル鑛物運搬道路、冷温泉場ニ於ケル汲泉場又ハ導泉敷地ノ如キ官許ヲ與ヘタル主タル事業ニ直接附隨シ必要缺クヘカラスト認メタル官有地ヲ其事業者ニ貸渡又ハ賣渡スコトキ

四 會計法施行以前土地ノ形質ヲ變更シ又ハ建物ヲ建設スルカ爲貸渡シタル官有地ヲ其借地人ニ賣渡シ又ハ引續キ貸渡スコトキ

第二條 直接公用ニ供スル官有地ヲ特ニ府縣郡市町村又ハ公共組合ノ直接公用ニ供スルトキハ借地料ヲ徵收セサルモノトス

第三條 府縣郡市町村又ハ公共組合ニシテ直接公用ニ供スル官有地ノ修理保存費ヲ負擔スルモノ

ハ其直接公用ヲ廢スルトキ官有財産管理上必要ノモノヲ除外之ヲ其費用負擔者ニ無代下付ス府縣郡市町村又ハ公共組合ニ於テ其土地ヲ賣拂ハントスルトキハ隣接地主ハ先買ノ權ヲ有スルモノトス

第四條 北海道官有未開ノ土地並官有森林原野ニハ本令ヲ適用セス

○官有地特別處分規則ニ依リ官有地賣渡及貸渡ニ係ル件

明治二十三年十月二十日 內務省訓令第三百三十七號

本年勅令第三百三十五號官有地特別處分規則ニ依リ官有地ヲ賣渡シ又ハ貸渡サントスルトキハ其應ニ於テ便宜評價委員ヲ設ケ其地價又ハ貸渡料ヲ評定セシム可シ其繼續シテ貸渡ス場合ニ於テモ亦同シ但最前貸渡ノ際豫メ地價ヲ定メ開墾成功ノ上賣渡スコトヲ許シタルモノハ此限ニアラス前項賣渡貸渡ニシテ從來經同ヲ要セシ分ハ評價書ヲ作り願人ノ申立金額アレハ其金額ヲモ記載シ圖面ヲ添ヘ本大臣ニ具申ス可シ

○官有森林原野及產物特別處分規則 明治二十三年四月三日 勅令第六十九號

朕官有森林原野及產物特別處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有地特別處分規則ニ依リ官有地賣渡及貸渡ニ係ル件 官有森林原野及產物特別處分規則

官有森林原野及產物特別處分規則

第一條 農商務大臣ハ左ノ場合ニ限リ官有森林原野及其產物ヲ競争ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ

貸渡又ハ賣却スルコトヲ得

一 官廳又ハ公共ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ賣渡シ及其建築材料ヲ賣渡スト

二 開墾若クハ牧畜ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ賣渡ストキ

三 鑛業ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ建築材料又ハ薪炭材ヲ賣渡ストキ

四 植樹ノ爲メ森林原野ヲ貸渡ストキ

五 非常ノ災害ニ罹リタル地方人民ノ爲メ建築材料ヲ賣渡ストキ

六 從來ノ慣行ニ由リ地元人民ニ木竹薪炭材下草林小柴若クハ土石ヲ賣渡ストキ

七 部分木ヲ仕付人ニ賣拂フトキ

八 社寺建築營繕ノ爲メ該社寺上地ノ木材若クハ土石ヲ賣渡ストキ

九 地押調査ニ由リ發見シタル開墾地ヲ其開墾人ニ賣渡ストキ

十 建築其他ノ用ニ供スヘキ土石ヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ其發見人ニ賣渡ストキ

十一 季節アル生產物ヲ賣拂フトキ

十二 開墾牧畜若クハ植樹ノ爲メ貸渡シタル森林原野ノ區域内ニアル產物ヲ其借受人ニ賣拂フトキ

十三 林業附帶ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ產物ヲ賣渡ストキ

十四 部分方法ニ由リ林產物製造ノ爲メ其原料ヲ請負人ニ賣渡ストキ

十五 見積借地料一箇年金貳百圓ニ超ヘサル森林原野ヲ貸渡ストキ

十六 拾町歩以下ニシテ見積代價金貳百圓ニ超ヘサル森林原野ノ民有地又ハ道路河川ニ在

セルモノヲ接續地ノ所有者ヘ賣拂フトキ

十七 見積代價金二百圓ニ超ヘサル木竹ヲ賣拂フトキ

第二條 農商務大臣ハ競争入札ニ付シタル物件ノ豫定價格ニ達セス該入札ヲ取消シタル場合ニ於テ爾後三十日以内ニ豫定價格ヨリ低カラサル代價ヲ以テ同一物件ノ拂下ヲ望ム者アルトキハ隨

意之ヲ賣拂フトコトヲ得

官有森林原野及產物特別處分規則第一條第二項ニ關スル件

明治二十三年七月三日

農商務省訓令第三十四號

明治二十三年勅令第六十九號官有森林原野及產物特別處分規則第一條第二項ニ據リ隨意契約ヲ以テ原野ヲ賣渡ストキハ左ノ條項ニ準據スヘシ

第一條 原野賣渡願書ハ地方長官宛ニテ地元町村長ヲ經由シ所轄官廳ニ差出サシム可シ其願書ニハ賣渡出願ニ係ル原野所在ノ國郡町村字名地目段別素地相當代價ヲ記載シ且事業方法書収

支豫算書及實測圖ヲ添付セシムルヲ要ス

第二條 前條ニ據リ願書ヲ差出シタル者アルトキハ地方長官ハ其願書ニ意見ヲ附シ事業方法書

收支豫算書及實測圖ヲ添ヘ本大臣ノ指揮ヲ請フ可シ其出願ニ係ル原野ノ段別五町歩已下ナル

トキハ之ヲ專決スルコトヲ得

第三條 原野賣渡願書ハ總テ書留郵便ヲ以テ之ヲ差出サシメ若シ二人已上同地ニ付テ出願シタ

官有森林原野及產物特別處分規則第一條第二項ニ關スル件

ルトキハ地方長官ハ願書發送時日ノ前後ヲ取調ヘ意見ヲ附シ本大臣ノ指揮ヲ請ク可シ

第四條 原野ノ賣渡ハ總テ豫約ノ方法ニ據リ代價ヲ納付シタル後ニアラサレハ其所有權ヲ拂受人ニ移轉セシメサルモノトス其代價ハ事業成功ノ後拂受人又ハ其保證人ヲシテ所轄官廳ニ納付セシム可シ

但事業成功ノ部分ニ對スル所有權ハ拂受人ノ請求ニ依リ其部分ニ相當スル代價ヲ納付セシメタル上之ヲ拂受人ニ移轉セシムルコトヲ得

第五條 賣渡ノ豫約ヲナス可キ原野ノ段別ハ四百町歩已内トス  
但土地ノ區域又ハ事業ノ方法ニ依リテハ特ニ此制限ノ超過ヲ許可スルコトアルヘシ

第六條 事業ノ成功期限ハ十五年以内ニ於テ之ヲ定メシメ若シ天災其他止ムヲ得サル事由ニ依リ中途拂受人ニ於テ豫定ノ事業方法又ハ成功期限ノ變更ヲ要スルコトアルトキハ地方長官ハ其拂受人ヲシテ更ニ事業方法書及收支豫算書ヲ添ヘ願書ヲ差出サシメ本大臣ノ指揮ヲ請ク可シ

第七條 賣渡ノ豫約ヲナシタル土地ノ使用料等ハ總テ之ヲ徵收セサルモノトス

第八條 左ニ記載スル條項ハ拂受人ヲシテ之ヲ遵守セシム可シ

- 一 賣渡豫約ニ係ル土地ハ所轄官廳ノ許可ヲ得シテ之ヲ他人ニ貸渡スヲ得サルコト
- 二 賣渡豫約土地ニ對スル負擔及其土地ヨリ生スル損害ニ就テハ拂受人其責ニ任ス可キコト
- 三 拂受人ハ賣渡豫約許可ノ日ヨリ滿六箇月已内ニ豫定ノ方法ニ從ヒ事業ニ著手ス可キコト
- 四 拂受人ハ前年ニ於ケル事業ノ功程ヲ翌年一月中ニ所轄官廳ニ報告ス可キコト
- 五 拂受人ニ於テ事業ニ著手シ及ヒ事業ノ成功シタルトキハ十日已内ニ所轄官廳ニ報告ス可キコト

六 賣渡豫約土地内ニ在ル木竹其他指定メタル物件ハ拂受人又ハ特別ノ契約ヲナスニアラサレハ拂受人ニ於テ之ヲ採取シ若クハ使用ス可カラサルコト

七 地方長官ニ於テ官吏ヲ派遣シ事業ノ進否及方法ヲ検査セシムルトキハ之ヲ拒ムヲ得サルコト

八 拂受人ハ賣渡豫約許可ノ日ヨリ十日已内ニ標杭ヲ境界ニ建設スヘキコト

九 事業ハ必ス豫定ノ方法書ニ依テ之ヲ爲ス可キコト

第十條 拂受人第八條ニ記載スル事項ヲ遵守セス又ハ成功期限ニ至リ事業成功セサルトキハ豫定ノ成功セル部分ニシテ相當ノ代價ヲ納付シタルモノハ之ヲ除キ其他ハ所轄官廳ニ返還セシム可シ  
前項ノ場合ニ於テ返還地ニ係ル勞費ハ官廳ニ於テ之ヲ辨償セス又返還地ニ在ル植物建物等ハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ取拂ハシム可シ

○官屬公有水面埋立出願ニ係ル件

明治二十三年十月二十日  
內務省訓令第三十六號

第一條 官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テノコトヲ出願スル者アルトキハ關係市町村會ノ意見ヲ聞キ



然後技術者ヲシテ調査セシメ第二條以下ニ規定シタル命令書ヲ下付シテ之ヲ免許ス可シ

第二條 公有水面埋立ノ命令書ニハ左ノ條項ヲ記載スヘシ

- 一 出願人ノ住所姓名
  - 一 埋立ノ位置並區域
  - 一 埋立ノ目的
  - 一 埋立ノ方法
  - 一 著手ノ期限
  - 一 成功ノ期限
- 既ニ免許ヲ與ヘタル後ト雖モ其成功ノ認可ヲ與フルマテノ間ハ公害ヲ生シ若クハ之ヲ發見スルトキハ地方長官ハ何時ニテモ無償ニテ命令書ノ條項ヲ改メ得ル
- 一 著手ノ期限ニ至テ著手セス成功ノ期限ニ至テ成功セス其他命令ノ條項ニ從ハサルモノハ免許ノ効ヲ失ヒ且障害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスルコトアラハ出願人ノ費用ヲ以テ之ヲ除カシメ又ハ豫防セシムルコト
  - 一 免許權ハ官許ヲ受クルニ非サレハ擔保貸付ニ供シ又ハ他ニ移スコトヲ得サルコト
  - 一 天災事變ノ爲メニ期限内ニ著手若クハ成功シ難キ事情アルモノハ其事由ノ止ミタル後二箇月内ニ出願スルコト於テハ相當ノ延期ヲ與フルコト
- 第三條 通船ノ便利用惡水ノ疏通ヲ保護スル等埋立ノ地位ト季節トニヨリテ公益上制限ヲ加フルノ必要アルモノハ精細ニ其仕様ヲ命令書中ニ記載ス可シ
- 第四條 埋立成功ノ後其地所ノ道路溝渠物揚場等公共ノ用ニ供ス可キ分ハ無償ニテ官有トナス可シ其他ハ出願人ノ所有ニ定ムルコトヲ得

前項官有ニ歸ス可キ地區ト出願ノ所有トス可キ地區トハ豫メ命令書並ニ圖面ニ明記ス可シ

第五條 大土工ニハ埋立方法書ノ外精密ナル設計書ト圖面ヲ造ラシメ之ヲ命令書ニ附屬ス可シ本條ノ場合ニ於テハ埋立ノ區域ヲ數區ニ分テ著手及成功ノ期限ヲ異ニシ殘工事ノ成功ニ妨ケナク且公益ニ害ナキ限リハ其成功スル毎ニ出願人ノ所有ニ定ムルコトヲ得

第六條 公有水面ヲ變シテ出願人ノ所有トナシタル後公害アルコトヲ發見スルトキハ時價ヲ以テ買收スルカ又ハ收用スルニ非サレハ回復スルコトヲ得ス

第七條 舊慣ニヨリテ捕魚採藻ノ業ヲ營ムノ外公有ノ水面ヲ其儘使用センコトヲ出願スルモノアルトキハ前條々ノ例ニ準シ命令書ヲ下付シテ之ヲ免許ス可シ但本條ノ場合ニ於テハ相當ノ料金ヲ國庫ニ納メシム可シ

第八條 官ニ屬スル私有水面ノ埋立ハ第一條ノ手續ヲナシタル後一般ノ官有地賣貸ニ關スル規則ニ隨ヒ其地ヲ賣却又ハ貸與シテ之ヲ埋立シム可シ其使用ハ一般貸地ノ手續ニ依ル可シ

第九條 水上ノ取締ニ關スル規則ニヨリテ公有水面ノ使用ヲ許スノ類ハ命令書ヲ下付スルニ及ハス又使用料ヲ納メシムルニ及ハス公共ノ障礙ナキニ於テハ無料使用ヲ許スコトヲ得

第十條 何レノ場合ニ於テモ使用料額ハ五箇年ヲ期シテ定ム可シ

第十一條 凡ソ一箇所ノ場所ヲ二人以上同時ニ埋立又ハ使用センコトヲ出願スル者アルトキハ共ニ内務大臣ニ稟議シテ其指令ヲ乞フ可シ

第十二條 公有水面ノ埋立ハ公益上必要アルモノ並特別ノ理由アルモノ、外五箇年内ニ成功シ難キ廣キ場所ヲ一手ニ免許スルコトヲ得ス

第十三條 公有水面ノ埋立使用ハ從來特ニ委任セシモノ及第九條ヲ除クノ外總テ意見ヲ具シ地圖ヲ添ヘ本大臣ニ稟議シテ後處分スヘシ其本大臣ノ指令ヲ得テ下付シタル命令書、設計書、圖面ハ

亦本大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ變更スルコトヲ得ス

○地所名稱區別 明治七年十一月七日太政官布告

明治六年三月第十四號布告地所名稱區別左ノ通改定候條此旨布告候事

官有地

第一種 地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ地方稅ト改ム)

一 皇宮地 皇居離宮等ヲ云

一 神地 伊勢神宮山陵官國幣社府縣社及國民有ニアラサル社地ヲ云

第二種 地券ヲ發シ地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス尤府縣所用ノ地ハ地券ヲ發セス

唯帳簿ニ記入ス(八年第三百十四號布告ヲ以テ但書共改正十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ賦スルトアルヲ地方稅ヲ賦セサルト改ム)

但此地ニアル官舎ヲ貸渡ス時ハ借地料ヲ賦スヘシ

一 皇族賜邸

一 官用地 官廳查使寮司庶務廳本廳裁判所警視廳陸海軍分營其他政府ノ許可ヲ得タル所用ノ地ヲ云

第三種 地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ地方稅ト改ム)

但人民ノ願ニヨリ右地所ヲ貸渡ス時ハ其間借地料ヲ納メシムヘシ(十二年第三十四號布告ヲ以テ借地料以下改正)

一 山岳丘陵林藪原野河海湖沼池澤清渠堤塘道路田畑屋敷等其他民有地ニアラサルモノ

一 鐵道線路敷地

一 電信架線柱敷地

一 證明疊敷地

一 各所ノ舊跡名區及ヒ公園等民有地ニアラサルモノ

一 人民所有ノ權理ヲ失セシ土地

一 民有地ニアラサル堂宇敷地及ヒ墳墓地

一 行刑場

第四種 地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ賦スルトアルヲ地方稅ヲ賦セサルト改ム)

一 寺院大中小學校說教場病院貧院等民有地ニアラサルモノ

民有地

第一種 地券ヲ發シ地租ヲ課シ地方稅ヲ賦スルヲ法トス(十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ地方稅ト改ム)

一 人民各自所有ノ確證アル耕地宅地山林等ヲ云

但此地賣買ハ人民各自ノ自由ニ任スト雖モ潰シ地開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

一 人民數人或ハ一村或ハ數村所有ノ確證アル學校病院鄉倉牧場林場社寺等官有地ニアラサル

土地ヲ云(本項ハ元第二種ナルヲ九年第八十八號布告ヲ以テ第一種ニ合ス)

但此地賣買ハ其所有者一般ノ自由ニ任スト雖モ潰地或ハ開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

第二種 地券ヲ發シテ地租地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(九年第八十八號布告ヲ以テ本項元第三種ナルヲ第一種ト改ム)

一 官有ニアラサル鄉村社地及ヒ墳墓地等ヲ云(八年第三百十四號布告ヲ以テ本項改正)

地所名稱區別

- 一 民有ノ用悪水路溜池敷堤敷及井溝敷地(八年第五百五十四號布 告ヲ以テ本項追加)
  - 一 公衆ノ用ニ供スル道路(十三年第四十三號布 告ヲ以テ但書共追加)
- 但其地形ヲ變換スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ請フヘシ

○土地收用法 明治二十二年七月二十日  
法律第十九號  
朕土地收用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土地收用法

第一章 總則

- 第一條 公共ノ利益ノ爲メノ工事ニシテ必要アルトキハ此法律ノ定ムル所ニ依リ損失ヲ補償シテ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得
- 土地ノ使用ハ三年以内ニ限ル但一年以上ニ亘リ又ハ使用ノ爲メ土地ノ形質ヲ變更スルトキ又ハ建物アル土地ハ所有者ノ請求ニ依リ之ヲ收用スヘシ
- 第二條 左ノ種類ノ工事ニ要スル土地ハ内閣ニ於テ公共ノ利益ニシテ必要ナルコトヲ認定シタル後此法律ヲ適用スルコトヲ得但國防上ノ工事ニ關スル認定ハ此限ニアラス
- 一 國防其他兵事ニ要スル土地
  - 二 政府、府縣郡市町村及公共組合ノ直接ノ公用ニ供スル土地
  - 三 官立公立ノ學校病院其他學藝及慈善ノ用ニ供スル土地

- 四 鐵道電信航路標識及測候所ノ建設用地
  - 五 河川溝渠ノ掘鑿道路橋梁埠頭水道及下水ノ築造用地
  - 六 防火及水害豫防並檢疫所火葬場其他公衆ノ衛生ニ要スル土地
- 第三條 前條ノ工事ノ爲メ土地ヲ收用又ハ使用セントスルノ必要アルトキハ起業者ハ工事計畫書並圖面ヲ製シ地方長官ニ差出スヘシ地方長官ハ之ヲ審査シ内務大臣ニ具申シ内務大臣ハ之ヲ閣議ニ提出スヘシ
- 前項ノ工事政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ハ工事計畫書並圖面ヲ製シ内務大臣ト協議シ之ヲ閣議ニ提出スヘシ
- 第四條 内閣ニ於テ工事ヲ認定シタルトキハ官報ヲ以テ起業者及起業地並工事ノ種類ヲ公告スヘシ
- 國防上ノ工事ニ關シテハ主務大臣ヨリ地方長官ニ通知シ地方長官ハ其土地所有者及關係人ニ通知スヘシ
- 第二章 土地收用ノ手續
- 第五條 工事ノ認定ヲ得タル後起業者ハ工事準備ノ爲メ其土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得
- 第六條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ヨリ工事準備ノ爲メ立入ルヘキ場所及期日ヲ豫メ其地ノ市町村長及各所有者ニ通知スヘシ但準備ノ爲メニ生スル所ノ損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ
- 若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ市町村長一名ノ鑑定人ヲ選ビ立會ハシメ其金額ヲ定ムヘシ
- 第七條 工事ノ認定前起業者計畫準備ノ爲メ其土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ豫メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ヨリ豫メ地方長官

ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ認可ヲ爲シ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ告示シ又ハ其土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

起業者本條第一項ノ測量又ハ検査ヲ爲ストキハ其場所及期日ヲ各所有者ニ通知スヘシ但損失ヲ補償スルトキハ前條ノ例ニ依ル

第八條 工事ノ仕様及収用又ハ使用スヘキ土地ノ區域確定シタルトキハ起業者ハ其仕様並圖面及損失補償金額見積書ヲ所有者及關係人ニ示シ協議ヲ遂クヘシ但國防上ノ用地ニ關シテハ其區域及損失補償金額見積書ヲ示シ仕様書及圖面ヲ添フルヲ要セス

若シ協議調ハサルトキハ起業者ハ各市町村別ニ左ノ事項ヲ記載シ前項ニ掲ケタル書類ト共ニ地方長官ニ差出シ土地収用審査委員會ノ裁決ヲ請フヘシ但政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ヨリ其書類ヲ地方長官ニ送付シ土地収用審査委員會ノ裁決ヲ求ムヘシ

一 収用又ハ使用スヘキ土地ノ番號地目並隣地ノ番號地目

二 収用又ハ使用スヘキ土地ノ段別若シ建物木石作物等アルトキハ其建坪數量但土地又ハ建物ニ分割ヲ來ス場合ニ於テハ其全部ノ段別建坪ヲ併セ記スヘシ

三 土地臺帳登記簿ニ依テ知り得ヘキ所有者及關係人ノ氏名

四 収用又ハ使用ノ時期

五 損失補償金額並其内譯但収用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル建物木石作物等ノ移轉ヲ請求スルトキハ其移轉料

第九條 地方長官前條ノ書類ヲ受取リタルトキハ之ヲ市町村長ニ下付スヘシ市町村長ハ之ヲ市役所又ハ町村役場ニ備置キ十四日間公衆ノ縦覽ニ供スル旨ヲ公告スヘシ且起業者ヲシテ特ニ所有

者及關係人ニ其旨ヲ通知セシムヘシ

前項ノ公告ニハ土地収用審査委員會ヲ開クヘキ場所、期日、所有者及關係人ヨリ意見書ヲ差出スヘキ場所ヲ記載スヘシ

第十條 収用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者及關係人ハ前條公告ノ日ヨリ十四日以内ニ意見書ヲ差出スヘシ若シ其期限ヲ過ルトキハ意見ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十一條 地方長官ハ前條公告ノ日ヨリ十四日間ヲ過キタル後土地収用審査委員會ヲ開クヘシ土地収用審査委員會ハ仕様其他ノ手續ヲ審査シ所有者及關係人ヨリ差出シタル意見書ノ當否、土地収用又ハ使用ノ區域収用又ハ使用ノ時期並補償ノ金額ヲ裁決スヘシ

第十二條 土地収用審査委員會ハ七日以内ニ裁決ヲ終リ地方長官ニ之ヲ報告スヘシ但其期限内ニ裁決スルコトヲ得サル事由アルトキハ地方長官ノ認可ヲ經テ其期限ヲ延スコトヲ得

第十三條 地方長官土地収用審査委員會ノ裁決ノ報告ヲ受ケタルトキハ市町村長ヲシテ之ヲ起業者及所有者並關係人ニ達セシムヘシ

第十四條 地方長官ヨリ裁決ノ達ヲ受ケタルトキハ起業者ハ補償金ヲ所有者及關係人ニ拂渡シ又ハ地方廳ニ預置キ土地ヲ受取ルヘシ但工事仕様ニ關スル裁決ニ服セス内務大臣ニ訴願シタル場合ハ此限ニアラス

第十五條 土地収用審査委員會ノ工事仕様ニ關スル裁決ニ服セサル者ハ裁決ノ達ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得内務大臣ノ裁決ヲ終ルマテハ起業者其工事ニ著手スルコトヲ得ス但内務大臣ノ裁決ハ之ヲ終審トス  
補償金額ニ關スル裁決ニ服セサル者ハ裁決ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ裁判所ニ出訴ス

ルコトヲ得此場合ニ於テハ起業者其工事ノ著手ヲ猶豫セサルコトヲ得

第十六條 起業者土地ヲ受取リタルトキハ其登記ト俱ニ該土地ハ第三十五條ノ場合ニ於テ舊所有者原價ヲ以テ買戻ノ權ヲ有スル旨ノ記入ヲ求ムヘシ

第三章 損失補償

第十七條 収用又ハ使用スヘキ土地其他ノ補償金額ハ所有者及關係人ヲシテ相當ノ價值ヲ得セシムルヲ目的トシテ之ヲ定ムヘシ

第十八條 収用ノ爲メ土地ノ分割ヲ來シタル場合ニ於テ收用地ノ補償價格殘地ノ價格ヨリ高キ事實アルカ又ハ殘地ノ價格ヲ減スヘキ事實アルトキハ併セテ其損失ヲ補償スヘシ

第十九條 収用又ハ使用ノ爲メ所有者及關係人ニ於テ新ニ道路溝渠橋梁塙柵及井等ヲ設ケザルヲ得サル場合ニ於テハ其費用ヲ補償スヘシ

第二十條 収用ノ爲メ土地ノ分割ヲ來シ所有者ニ於テ從來該地ヲ使用セル目的ニ供スルコトヲ得サル場合ニ於テハ其土地全部ノ収用ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 収用又ハ使用ノ土地ニ附屬スル建物木石等ハ併セテ之ヲ収用又ハ使用シ作物ハ之ヲ収用スヘシ但所有者ニ於テ其移轉ヲ請求スルトキハ移轉料ヲ補償スヘシ

第二十二條 所有者補償金額ヲ増サンカ爲メ故ラニ建物雜作ヲ修補シ又ハ木石作物等ヲ増加シタル實蹟アルトキハ之ヲ補償金額中ニ算入セス所有者ヲシテ自費ヲ以テ其土地ノ収用又ハ使用ノ日マテニ之ヲ取拂ハシムヘシ

第二十三條 土地ト建物木石作物等ト其所有者ヲ異ニスル場合又ハ借地人借家人小作人等其土地ニ對シ特別ノ關係ヲ有スル者アル場合ニ於テハ其収用又ハ使用ニ因テ生スル損失ニシテ金額ニ見積ルコトヲ得ルモノニ限リ各別ニ之ヲ補償スヘシ

第二十四條 補償金ノ受取人ニ於テ拒ムトキハ起業者ハ之ヲ地方廳ニ預置クヘシ

第二十五條 工事ノ仕様並補償金額ノ決定ノ後起業者其土地ヲ収用又ハ使用セサル以前其工事ヲ廢スル場合ニ於テ所有者及關係人ノ爲メニ損失ヲ被リタルトキハ其補償金ヲ請求スルコトヲ得収用又ハ使用ノ時期ヲ過キテ仍ホ土地ヲ収用又ハ使用セサルトキモ亦同シ

第二十六條 収用又ハ使用ノ日ヨリ三箇年以内ニ其補償金ヲ請求スルコトヲ得

第二十七條 天災時變ニ際シ急施ヲ要スル公共ノ利益ノ爲メノ工事ハ起業者ノ申立ニ依リ郡市長之ヲ認定シ直ニ土地ヲ収用又ハ使用セシムルコトヲ得但補償ニ關スル手續ハ執行後此法律ニ依リ之ヲ行フヘシ

第二十八條 國防又ハ道路堤防鐵道及埠頭ノ工事ニ供スル土石砂礫ニシテ宅地外ニ在テ所有者使用セザルモノハ此法律ニ依リ之ヲ収用スルコトヲ得

第二十九條 土地收用審査委員ハ府縣會常置委員ヲ以テ之ニ充テ地方長官ヲ會長トス地方長官故

第四章 土地收用審査委員

土地收用審査委員ハ府縣會常置委員ヲ以テ之ニ充テ地方長官ヲ會長トス地方長官故

土地收用法

二五九

障アルトキハ上席高等官之ヲ代理ス

工事ノ仕様ヲ裁決スル場合ニ於テハ其工事ノ狀況ニ依リ専門技術家ヲ委員中ニ加フヘシ

第三十條 起業者及収用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者及關係人並其父子兄弟ハ土地収用審査委員會ノ會議ニ與カルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ府縣會常置委員ニ缺員ヲ生スルトキハ補缺員ノ中ヲ以テ補充スヘシ

第三十一條 土地収用審査委員會ノ選定スル鑑定人並第六條ノ鑑定人ハ其市町村ニ於テ土地ヲ所有シ且前條第一項ニ觸レサル者ニ限ル

第三十二條 土地収用審査委員會ハ起業者並所有者及關係人ヲ呼出スコトヲ得

第三十三條 土地収用審査委員會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス  
會議ハ多數ニ依テ決ス若シ可否ノ數相半ハスルトキハ會長之ヲ決ス

第五章 雜則

第三十四條 収用又ハ使用ノ手續ニ關スル費用土地収用審査委員會並第六條ニ於テ要スル鑑定人ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス但所有者及關係人ノ書類差出ニ關スル費用ハ總テ其自辨トス

第三十五條 起業者工事ヲ廢シ又ハ其他ノ事故ニ由リ収用シタル土地ノ全部若クハ一部不用ニ歸シタルトキハ起業者ハ直ニ其旨ヲ舊所有者ニ通知スヘシ若シ其所在不分明ナルトキハ官報及其

地方新聞紙ヲ以テ三回以上公告スヘシ  
前項ノ土地ハ舊所有者原價ヲ以テ之ヲ買戻スコトヲ得

第三十六條 前條ノ通知後二箇月以内又ハ公告後六箇月以内ニ舊所有者何等ノ申込ヲ爲サ、ルトキハ買戻ノ權ヲ失フモノトス

第三十七條 起業者若シ第三十五條ノ通知又ハ公告ヲ爲サシテ他人ニ土地ヲ賣却讓與シタルト

キハ舊所有者ハ現所有者ニ就テ原價ヲ以テ其土地ヲ買戻スコトヲ得

第三十八條 國防其他兵事ノ急務ヲ要スル場合ニ於テ土地ヲ収用又ハ使用スルハ特ニ定メタル法律ノ條規ニ依ル

第三十九條 北海道沖繩縣ニ於テハ土地収用審査委員會ノ爲メヘキ事務ハ北海道廳長官沖繩縣知事之ヲ行フ

第四十條 市制町村制ノ施行ニ至ラサル地方ニ於テハ此法律ニ依リ市町村長ノ爲メヘキ事務ハ區戸長之ヲ行フ

第四十一條 明治八年太政官第三百二十三號達公用土地買上規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○土地収用法ニ依リ収用スヘキ土地ノ細目ヲ示サ、ルモノ公告方

明治廿二年十二月九日  
內務省訓令第四十二號

内閣ニ於テ土地収用法ニヨリ起業スル工事ヲ認定シ官報ヲ以テ起業地ヲ公告スルニ方リ収用スヘキ土地ノ細目ヲ示サ、ルモノハ各其管内ニ係ル郡市町村名及字番號地目ヲ公告スヘシ

○土地收用協議會規則 明治二十三年七月廿五日 法律第五十四號

朕土地收用協議會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土地收用協議會規則

第一條 土地收用法ニ依リ工事ノ認定ヲ得タル起業者ハ同法第八條第一項ニ基キ其工事ノ仕様及收用スヘキ土地ノ補償金額ニ付協議ヲ遂クル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ同項ノ書類ヲ添ヘ地方長官ニ申立テ官吏ノ出張ヲ請ヒ協議會ヲ開クコトヲ得但官ノ起業ニ係ルトキハ主務長官ヨリ其書類ヲ地方長官ニ送付シ官吏ノ出張ヲ求ムルコトヲ得

第二條 第一條ニ依リ地方長官ヨリ出張ヲ命セラレタル官吏ハ日時及場所ヲ示シ起業者<sup>官ノ起業ニ係ルト</sup>及所有者並關係人ヲ呼出シ協議會ヲ開クヘシ但少クトモ開會十日日前前條ノ書類ヲ市町村長ニ送付シ之ヲ所有者及關係人ニ示サシムヘシ

第三條 協議會ニ於テハ先ツ工事ノ仕様ヲ協議シ補償金額ニ及フモノトス但補償金額ニ關シテハ先ツ鑑定人ノ意見ヲ開クヘシ

第四條 鑑定人ハ三名以下トシ府縣參事會ノ意見ヲ開キ地方長官之ヲ命ス但府縣制ヲ實施セサル地方ニ於テハ府縣常置委員ノ意見ヲ開クモノトス

第五條 出張官吏ハ其協議會ヲ統宰シ協議ノ終結シタルモノハ之ヲ筆記セシメテ起業者及所有者並關係人ニ讀聞セ起業者及所有者並關係人ト共ニ署名捺印スヘシ

第六條 起業者所有者又ハ關係人ニ於テ筆記ノ謄本ヲ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ

第七條 協議會ニ於テ協議ノ終結セサル事件アルトキハ出張官吏ハ起業者及所有者並關係人ノ申立及鑑定人ノ意見ニ自己ノ意見ヲ付シ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ求ムル爲メ土地收用法第八條第二項ノ手續ヲナスヘシ

第八條 出張官吏及鑑定人ノ旅費日當並協議會ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス

## 鐵道

○私設鐵道條例 明治二十年五月十七日  
勅令第十二號

朕私設鐵道條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

### 私設鐵道條例

第一條 旅客及荷物運輸營業ノ目的ヲ以テ鐵道ヲ布設セントスル者ハ發起人五人以上結合シ鐵道會社創立願書ニ起業目論見書ヲ添ヘ本社ヲ設置セントスル地ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ差出スヘシ

馬車鐵道ハ本條例定ムル所ノ限ニアラス

第二條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

第一 社名及本社所在地

第二 線路ノ兩端及其經過スヘキ地名但略圖ヲ添フヘシ

第三 資本金ノ總額及總株數並一株ノ金額

第四 鐵道布設ノ費用及運輸營業上ノ收支概算

第五 發起人ノ氏名住所及發起人各自ノ引受クヘキ株數但發起人總員ノ引受クヘキ株數ハ總株數十分ノ二以上タルヘシ

第三條 政府ニ於テハ第一條ノ願書及目論見書ヲ査閲シ起業ノ大體ニ不都合ナキト認ムルトキハ假免狀ヲ下付シ本社ヲ設立セントスル地ノ地方廳ニ令シ發起人ヲシテ線路圖面工事方法書工費豫算書及會社ノ定款ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ



既設ノ鐵道ニ妨害ヲ生スルノ虞アリ又ハ其地方ノ狀況鐵道ノ布設ヲ要セスト認ムルトキハ願書ヲ却下スヘシ

第四條 政府ニ於テ前條ノ圖面書類ヲ審査シ妥當ナリト認ムルトキハ裁可ヲ經テ會社設立及鐵道布設ノ免許狀ヲ下付スヘシ

第五條 發起人前條ノ免許狀ヲ下付セラレタル後ニアラサレハ社名ヲ以テ株金ヲ募集シ鐵道布設ノ工事ニ著手スルコトヲ得ス

第六條 會社ハ免許狀下付ノ日ヨリ三箇月以内ニ鐵道布設工事ニ著手シ免許狀ニ記載シタル豫定期限内ニ竣功スヘシ若シ其期限内ニ竣功シ難キ事由アルトキハ少クトモ二箇月以前本社所在ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ具申シ延期ヲ請フヘシ但其延期ハ豫定期限ノ半ヲ超ルコトヲ得ス

第七條 軌道ノ幅員ハ特許ヲ得タル者ヲ除クノ外總テ三呎六吋トス

第八條 左ニ記載スルモノヲ以テ鐵道用地トス  
第一 線路ニ當ル敷地但其幅員ハ築堤切取架橋等工事ノ必要ニ應シテ定ムルモノトス  
第二 停車場及之ニ附屬スル車庫貨物庫等ノ建築用ニ供スル土地  
第三 前項ノ構内ニ常任ヲ要スル驛長車長及機關方等ノ家宅番人小屋等ノ建築用ニ供スル土地  
第四 鐵道布設又ハ運輸ニ要スル車輛器具ヲ製作修繕スル器械場及同上ノ資材器具ヲ貯藏スル倉庫ノ建築用ニ供スル線路ニ沿ヒタル土地

第九條 鐵道布設ノ爲メ舊來ノ道路橋梁溝渠運河等ヲ變換シ又ハ一時之ヲ移設セントスルトキハ所管官廳ノ許可ヲ受クヘシ但其費用ハ會社ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第十條 線路ノ道路ヲ橫斷スル場所ニハ橋梁ヲ架設シ若クハ踏切道ヲ設クヘシ其他危險防止ノ爲メ必要ノ場所ニハ柵柵門戸堤防ヲ設ケ若クハ番人ヲ配付スル等充分ノ警備ヲナスヘシ

第十一條 線路ノ全部若クハ一部ノ工事竣功シ旅客及貨物ノ運輸ヲ開業セントスルトキハ鐵道局長官ニ届出ヘシ

第十二條 鐵道局長官ハ前條ノ届出ニ依リ監査員ヲ派遣シテ工事方法書ニ照シ軌道橋梁車輛建物等ヲ監査セシメ完全ナリト認ムルトキハ開業免許狀ヲ下付スヘシ若シ不完全ナリト認ムルトキハ其改築修理ヲ命スヘシ但此場合ニ於テハ監査員ノ復命書ヲ會社ニ示スヘシ

第十三條 鐵道局長官ハ鐵道布設中臨時監査員ヲ派遣シテ工事ヲ監査セシメ又運輸開業ノ後ニ於テモ監査員ヲ派遣シテ軌道橋梁車輛建物等並運輸上ノ實況ヲ監査セシメ危險ナリト認ムルトキハ其改築修理ヲ命スヘシ但此場合ニ於テハ監査員ノ復命書ヲ會社ニ示スヘシ

第十四條 第十二條第十三條ノ改築修理ヲナシタルトキハ更ニ監査ヲ受クヘシ

第十五條 官有ノ土地ニシテ鐵道用地ニ必要ナルモノ及第九條ノ土地ハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下ケ其民有ニ係ルモノハ公用土地買上規則ニ據リ買上ケ會社ニ拂下クヘシ但其土地ニ建物アルトキハ本條ニ準シテ之ヲ處分スヘシ

第十六條 會社ニ於テ鐵道布設ヲ止メ又ハ線路ノ變更ニ依リ不用トナリタル鐵道用地ニシテ最初公用土地買上規則ニ據テ買上ラレタルモノハ原所有者ニ於テ原價ヲ以テ之ヲ買戻スコトヲ得

會社ハ前項ノ土地不用トナリタル旨ヲ原所有者ニ通知スヘシ若シ原所有者ニ於テ三箇月以内ニ之ヲ買戻サ、ルトキハ其權利ヲ失フモノトス

第十七條 政府ハ鐵道用地内ニ於テ線路ニ沿ヒ電線ヲ架設スルコトヲ得又會社ハ其架柱ノ一部ヲ使用シ鐵道用ノ電線ヲ架スルコトヲ得但其一部ニ對スル費用ヲ支辨スヘシ

第十八條 會社ハ鐵道用地及停車場建物ノ一部ヲ無料ニテ郵便及ヒ電信ノ用ニ供スヘシ但政府ニ

私設鐵道條例

於テ建物ノ改造ヲ要シ又ハ用地ノ買上ヲナストキハ其實費ヲ支辨スヘシ

第十九條 明治十五年第五十九號布告郵便條例ニ依リ郵便物ト稱スルモノ及其遞送ニ關スル人員ノ運賃ハ左ニ記載スル割合ヲ以テ遞信省ト會社ト豫メ之ヲ約定スヘシ

第一 下等旅客二十人ノ坐位ニ當ル積量

一哩ニ付金一錢五厘以内

第二 一車(四噸積)貸切

一哩ニ付金五錢以内

但車室ヲ構造シ又ハ之ヲ改造セシメタルトキハ遞信省ヨリ其實費ヲ支辨スヘシ

第二十條 鐵道事務ニ關シテ往復スル官吏ハ無料ニテ乘車セシムヘシ但其官吏ハ常乗切手ヲ帶ル者ニ限ル

第二十一條 公務ヲ以テ往復スル陸海軍軍人軍屬及警察官吏又ハ軍馬銃砲彈藥糧食被服陣具工鉞兵器具天幕等ハ總テ半價ヲ以テ輸送スヘシ但其公務タルコトヲ證スヘキ通券ヲ帶ル者ニ限ル

第二十二條 囚徒及其護送官吏ハ半價ヲ以テ乘車セシムヘシ

第二十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ徵發令ノ定ムル所ニ從ヒ鐵道ヲ使用セシムヘシ

平時ト雖モ至急ニ兵隊ノ派遣ヲ要スル場合ニ於テハ當該官廳ノ命ニ從ヒ速ニ之ヲ輸送スヘシ但其運賃ハ第二十一條ノ例ニ依ル

第二十四條 陸海軍ニ於テ軍用上必要ノ爲メ車輛ニ改修ヲ加ヘ又ハ新裝置ヲ施シ或ハ載卸用器具ノ製造ヲ命シ其實費ヲ支辨スルトキハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 鐵道局長官ハ公衆ノ安全ノ爲メ官有鐵道ニ實施スル事物ハ會社ニ命シ之ヲ施設セシムルコトヲ得

第二十六條 政府又ハ政府ノ許可ヲ得タル者ニ於テ會社ノ鐵道線路ニ接続シ若クハ之ヲ橫斷シテ鐵道ヲ布設シ又ハ會社ノ鐵道線路ニ接近シ若クハ之ヲ橫斷シテ道路橋梁溝渠運河ヲ設クルトキハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十七條 官設鐵道ニ施行スル規則ハ私設鐵道ニモ亦之ヲ適用スヘシ

第二十八條 會社ニ於テ工事ノ方法又ハ會社ノ定款ヲ變更セントスルトキハ本社所在ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ具申シ認可ヲ受クヘシ

第二十九條 旅客及貨物ノ運賃額又ハ運輸規程ヲ定メ若クハ之ヲ變更セントスルトキハ鐵道局長官ノ認可ヲ受クヘシ但下等旅客運賃額ハ一哩ニ付金一錢五厘ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ス又其範圍内ニ於テ運賃額ヲ増加スル場合ニ於テハ少クトモ二週日前ニ之ヲ公示スヘシ

第三十條 列車發著時間及度數ヲ定メ又ハ之ヲ變更スルトキハ鐵道局長官ニ報告スヘシ

第三十一條 會社ハ半年度毎ニ營業ノ報告書ヲ調製シ四十日以内ニ鐵道局長官ニ差出スヘシ

第三十二條 會社ハ其財産ノ全部若クハ一部ヲ抵當トシテ負債ヲナスコトヲ得但其額ハ株主ヨリ拂込タル資本金額十分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス

每勘定季中ニ支拂フヘキ負債ノ元利金ヲ完償シタル後ニアラサレハ株主ニ純益金ノ配當ヲナスコトヲ得ス

第三十三條 會社ノ勘定ヲ分ツテ左ノ二種トス

第一 資本勘定 軌道車輛器械停車場土地建物等營業上收益アルヘキ物件ノ創設ニ係ル出納

第二 收益勘定 前項物件ノ維持保存ニ要スル費用及營業上ノ出納

第三十四條 私設鐵道ノ官設鐵道ニ接続スル場合ニ於テ交互運輸ノ手續及賃金ノ割合等ハ鐵道局長官之ヲ定ムヘシ

二箇以上ノ私設鐵道接續スル場合ニ於テ交互運輸ノ手續及資金ノ割合等ニ係リ雙方ノ議協ハツ  
ルトキハ鐵道局長官ノ裁定ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テ鐵道局長官ノ裁定ハ終局トス

第三十五條 政府ハ免許狀下付ノ日ヨリ滿二十五箇年ノ後(特ニ營業期限ヲ定メタルモノハ其滿  
期後)ニ於テ鐵道及附屬物件ヲ買上ルノ權アルモノトス

第三十六條 前條ニ依リ鐵道及附屬物件ヲ買上ルキトハ前五箇年間ノ株券價格ヲ平均シ之ヲ以テ  
買上價格ト定ムヘシ

第三十七條 免許狀下付ノ日ヨリ三箇月以内ニ鐵道布設工事ニ著手セヌ又ハ豫定期限及延期内ニ  
竣功セサルトキハ免許狀ノ返納ヲ命スヘシ但事宜ニ由リ其既設ノ鐵道及附屬物件ヲ公買ニ附シ  
其買受者ヲシテ之ヲ竣功セシムルコトアルヘシ

第三十八條 旅客及貨物輸送ノ際社員ノ疎虞懈怠又ハ故意ニ依リ損害ヲ生シタルトキハ會社其賠  
償ノ責ニ任スヘシ

第三十九條 第五條ノ免許狀ヲ受ケスシテ社名ヲ以テ株金ヲ募集シ及鐵道布設ノ工事ニ著手シタ  
ルトキハ第三條ノ假免狀ヲ沒收シ第十二條ノ免許狀ヲ受ケス又ハ第十二條第十三條ノ改築修理  
ヲナサスシテ營業ヲナシタルトキハ鐵道局長官ハ之ヲ停止スヘシ但其營業中ノ收入金ハ之ヲ沒  
收ス

第四十條 鐵道運輸開業後會社ニ於テ此條例及會社定款ニ違背シ又ハ鐵道ノ正當ナル使用ヲ妨害  
シタルトキハ政府ハ役員ヲ改撰セシメ又ハ鐵道局ヲシテ運輸ノ業ヲ繼續セシムヘシ但鐵道局ヲ  
シテ運輸ノ業ヲ繼續セシムル場合ニ於テモ其營業上ノ損益ハ仍ホ會社ニ屬スヘキモノトス  
第四十一條 本條例ノ細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

○鐵道廳ニ於テ隨意契約ニ依リ物件ヲ賣買貸借スルノ件

明治二十三年十一月二十六日

勅令第二百七十七號

朕鐵道廳ニ於テ隨意契約ニ依リ物件ヲ賣買貸借スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道廳ニ於テ鐵道事業ニ要スル車輛器具機械其他材料素品ヲ私設鐵道會社ヨリ買上借入又ハ私設  
鐵道會社ニ賣渡貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○軌道條例 明治廿三年八月廿三日  
法律第七十一號  
朕軌道條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軌道條例

第一條 一般運輸交通ノ便ニ供スル馬車鐵道及其他之ニ準スヘキ軌道ハ起業者ニ於テ内務大臣ノ  
特許ヲ受ケ之ヲ公共道路トシ布設スルコトヲ得  
第二條 馬車鐵道及其他之ニ準スヘキ軌道布設ノ爲起業者ノ負擔ヲ以テ在來ノ道路ヲ取擴メ又ハ  
更正シ若ハ新ニ軌道敷ヲ設クルノ必要アルトキハ之ニ要スル土地ハ起業者ニ於テ土地収用法ノ  
規定ニ依リ閣内ノ認定ヲ經テ之ヲ収用スルコト得  
第三條 在來ノ道路ヲ取擴メ又ハ更正シタル部分及新設シタル軌道敷ハ俱ニ道路敷ニ編入ス

東京市區改正

○東京市區改正條例 明治二十一年八月十六日  
勅令第六十二號

朕東京市區ノ營業衛生防火及通運等永久ノ利便ヲ圖ル爲メ東京市區改正條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公  
布セシム

東京市區改正條例

第一條 東京市區改正ノ設計及毎年度ニ於テ施行スヘキ事業ヲ議定スル爲メ東京市區改正委員會  
ヲ置キ内務大臣ノ監督ニ屬セシム其組織權限ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム  
東京市區改正委員會ノ費用ハ市區改正費ヲ以テ之ヲ支辨ス  
第二條 東京市區改正委員會ニ於テ市區改正ノ設計ヲ議定シタルトキハ内務大臣ニ具申スヘシ内  
務大臣ハ審査ノ上内閣ノ認可ヲ受ケ東京府知事ニ付シ之ヲ公告セシムヘシ  
第三條 市區改正ノ費用ニ充ツル爲メ東京府區部内ニ於テ左ノ特別稅ヲ賦課ス  
一 地租割 地租同額以內但耕地ヲ除ク  
一 營業稅並雜種稅 地方稅十分ノ四以內  
一 家屋稅 同上  
一 清酒 區内ニ輸入又ハ區内ニ於テ釀造販賣スルモノ一石ニ付金五拾錢以內  
第四條 特別稅滯納者ハ租稅滯納處分法ニ依テ處分ス  
第五條 市區改正ノ費用ヲ補助スル爲メ東京府區部ノ基本財産トシテ即今官用ニ供セサル東京  
府區部内ノ官有河岸地ハ總テ之ヲ下付ス

軌道條例  
東京市區改正條例

此河岸地ヨリ收入スル金額ハ市區改正事業ノ終ルマテ他ニ之ヲ支出スルコトヲ得ス

此河岸地ハ市區改正事業ノ終ルマテ其地租ヲ免除ス

此河岸地ハ賣却讓與スルコトヲ許サス但已ムナ得サル場合ニ於テハ東京府知事東京府區部會ノ議決ヲ取り内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ賣却讓與スルコトヲ得

第六條 市區改正ノ經費及特別稅賦課徵收ノ方法ハ府縣會規則ニ依リ東京府知事東京府區部會ニ付シ之ヲ議定セシムヘシ

第七條 第三條第五條ノ收入合計ハ毎年度三拾萬圓ヨリ少カラス五拾萬圓ヨリ多カラサルモノトス但毎年度雜收入及前年度繰越金ハ本條ノ收入額ニ合算スルコトヲ得ス

第八條 (廿三年八月勅令第百六十九號ヲ以テ削除)

第九條 東京府知事ハ毎年四月ヨリ翌年三月マテ一周年度トナシ前年十月マテニ東京市區改正委員會ニ於テ議定シタル市區改正事業ニ屬スル收支豫算ヲ立テ東京府區部會ノ議決ヲ取り内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

東京府知事前項ノ認可ヲ受タルトキハ之ヲ東京市區改正委員會ニ報告スヘシ

第十條 東京府知事ハ一周年度ノ出納ヲ計査シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ初メニ於テ之ヲ東京府區部會ニ報告シ然ル後内務大臣大藏大臣及東京市區改正委員會ニ報告スヘシ

第十一條 年度中ニ於テ豫知スヘカラサル事狀ニ由リ既定ノ事業ヲ變更セサルヲ得サルトキハ東京府知事東京市區改正委員會ノ議決ヲ取り内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ施行スルコトヲ得但次回ノ東京府區部會ニ之ニ報告スヘシ

第十二條 市區改正ノ爲メ一時巨額ノ支出ヲ要スルトキハ東京府區部會ハ毎年收入スヘキ特別稅ヲ目的トシ五十箇年以内ノ期限ヲ以テ公債ヲ募集スルコトヲ得其金額及起債ノ方法ハ東京府知

事之ヲ定メ東京府區部會ノ議決ヲ取り内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 市區改正ニ屬スル會計ハ東京府知事特別ニ整理スヘシ

第十四條 市區改正ノ事務ハ東京府知事其執行ノ責ニ任スヘシ

第十五條 市區改正ニ係ル土地建物處分方法ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條 本條例ハ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

○東京市區改正土地建物處分規則

明治二十二年一月廿八日 勅令第五號

朕東京府市區改正土地建物處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京市區改正土地建物處分規則

第一條 市區改正ニ要スル官有地ハ無料ニテ供用セシメ其地ニ屬スル官有ノ建物植物等ハ無料

ニテ交付スヘシ但地方稅ノ經濟ニ屬スルモノハ民有ニ準ス

民有地及其地ニ屬スル民有ノ建物植物又ハ官有地ニ在ル民有ノ建物植物等ハ東京府知事其所

有者ト協議ノ上相當ノ代價又ハ移轉料ヲ償却ス可シ

若シ協議調ハサルトキハ雙方ヨリ評價人各一人ヲ出シ評價セシメ東京府知事之ニ意見ヲ付シ

内務大臣ノ決ヲ請ヒ之ヲ定ムヘシ  
第二條 市區改正ノ爲メ民有地買上ノ場合ニ於テ一宅地ヲ爲スニ足ラサル殘餘ヲ生スルモノハ併セテ之ヲ買上シヘシ

第三條 市區改正ニ關シ不用ニ歸シタル土地一宅地ヲ爲スニ足ルモノニシテ「曩ニ公用土地買上規則」又ハ本則第一條ニ依リ買上タルモノハ原價ヲ以テ特ニ舊所有者ニ拂下ヘシ若シ舊所有者之ヲ買受ルコトヲ欲セサルカ又ハ舊所有者ナキモノハ直ニ公賣ニ付ヘシ  
前項ノ土地一宅地ヲ爲スニ足ラサルモノハ其接續地ノ所有者之ヲ買受クヘキモノトス若シ其所有者之ヲ買受ルコトヲ欲セサルトキハ東京府知事ハ第一條ニ依リ其接續地及建物植物等ヲ買上クヘシ

前條及本條ニ一宅地ト稱スルモノハ市街ノ狀況ニ依リ東京府知事之ヲ定ム

第四條 東京府知事ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ市區改正ニ要スル土地ニ屬スル建物新築増築改築ノ制限ヲ規定シ之ヲ告示スヘシ

其制限内ト雖モ新築増築改築セント欲スル者ハ豫メ東京府知事ノ認可ヲ受クヘシ東京府知事ハ設計着手ノ都合ニ依リ之ヲ認可セサルコトヲ得

若シ之ヲ認可セサルトキハ新築増築改築者ハ其土地及其地ニ屬スル建物植物等ノ代價又ハ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其土地自己ノ所有ニアラサルトキハ通知ヲ以テ其土地賃借ノ契約ヲ解クコトヲ得

若シ制限ニ違ヒ又ハ東京府知事ノ認可ヲ受スシテ新築増築改築ナシタル者ハ土地買上ノ際其新築増築改築ニ係ル建物ノ代價又ハ移轉料ヲ請求スルコトヲ得ス

第五條 土地建物植物等ノ賣却代金ハ市區改正ノ費用ニ充ツヘシ

○東京府區内清酒輸入規則

明治二十一年十二月十九日  
勅令第八十八號

朕東京市區改正條例施行ニ付清酒輸入規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京府區内清酒輸入規則

第一條 東京府區内ニ於テ區外ヨリ清酒ヲ輸入スル者ハ清酒輸入營業免許ヲ受クヘシ

第二條 免許ヲ受ケタル者ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ東京府區内ニ清酒ヲ輸入スルコトヲ得ス

第三條 免許ヲ受ケスシテ清酒ヲ輸入シタルトキハ其清酒及容器ヲ沒收シ既ニ之ヲ費消シ又ハ賣捌キタルモノハ其代金ヲ追徴ス

第四條 清酒輸入者ニシテ東京市區改正條例第三條第四項ノ税金ヲ通脱シタルトキハ其税金ニ相當スル金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五條 此規則ニ依テ沒收シタル物品代金ハ東京市區改正費ニ充用スルモノトス

第六條 清酒ヲ再輸出スルトキハ其特別稅下戻ヲ請フコトヲ得其下戻ノ方法ハ府縣會規則ニ依

リ東京府知事東京府「區」部會ニ付シ之ヲ議定セシムヘシ

第七條 東京府知事ハ此規則實行ノ責ニ任ス

第八條 此規則ハ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

○東京市區改正條例其他二規則ニ關スル件 明治廿三年八月十四日 勅令第七十號  
朕東京市區改正條例東京市區改正土地建物處分規則及東京府區内清酒輸入規則ニ關スル件ヲ裁可  
シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京市區改正條例其他二規則ニ關スル件

第一條 東京市區改正條例東京市區改正土地建物處分規則及東京府區内清酒輸入規則ノ規定ニ依  
リ東京府知事ニ屬スル事務ハ東京市參事會ニ之ヲ屬セシメ東京府市部會ニ屬スルモノハ東京市  
會ニ之ヲ屬セシム

第二條 市區改正ノ費用ヲ補助スル爲メ東京府市部ノ基本財産トシテ下付シタル河岸地ハ之ヲ東  
京市ニ引繼クヘシ

第三條 明治廿三年度東京市區改正ノ収支豫算ニシテ東京府市部會ノ議定ヲ經タルモノハ東京市  
ニ於テ之ヲ存積スヘシ

○東京市區改正委員會組織權限

明治二十一年八月十七日 閣令第十四號

東京市區改正委員會ノ組織權限ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 東京市區改正委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス  
委員長

委員

- 內務省高等官 三人
- 大藏省高等官 二人
- 陸軍省高等官 二人
- 農商務省高等官 二人
- 逓信省高等官 二人
- 警視廳高等官 二人
- 東京府高等官 二人
- 東京市會議員(廿三年閣令第六) 十人
- 臨時委員(二十一年閣令第十八) 十人

幹事

書記

第二條 委員長ハ内閣ニ於テ之ヲ特選シ委員及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス但東  
京市會議員ハ市會ニ於テ之ヲ選定ス(二十一年閣令第十八號廿三)

第三條 幹事ハ委員長ニ於テ委員中ヨリ之ヲ選定シ委員長ノ命ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第四條 書記ハ委員長之ヲ命ス上官ノ指揮ヲ受ケ文書計算ニ從事ス(二十二年閣令第十  
七號ヲ以テ修正)

第五條 委員長ハ議事ヲ整頓ス

委員長事故アルトキハ其指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第六條 委員會ノ議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 會議ハ過半数ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ委員長ノ可否スル所ニ依ル

東京市區改正條例其他二規則ニ關スル件  
東京市區改正委員會組織權限

第八條 委員會ハ擬ニ東京市區改正審査會ニ於テ議定シタル方案ニ據リ特ニ其改正ヲ要スルモノ、ミテ議定シテ市區改正ノ設計トナシ及毎年度ニ於テ施行スヘキ事業ヲ議定ス

第九條 委員會ハ市區改正ニ關スル事項ニ付各廳ニ照會往復スルコトヲ得

第十條 委員會ハ市區改正ノ實施ニ方リ委員ヲ派遣シテ之ヲ檢察セシメ設計ニ違フモノアレハ東京市參事會ニ照會シテ其改正ヲ要求シ時宜ニ依リ內務大臣ニ具狀スルコトヲ得(廿三年閣令第六號ヲ以テ改正)

行政訴訟並訴願

○行政裁判法 明治二十三年六月二十八日  
法律第四十八號

朕行政裁判法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政裁判法

第一章 行政裁判所組織

第一條 行政裁判所ハ之ヲ東京ニ置ク

第二條 行政裁判所ニ長官一人及評定官ヲ置ク評定官ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

行政裁判所ニ書記ヲ置ク其員數及職務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 長官ハ勅任トス評定官ハ勅任又ハ奏任トス

長官及評定官ハ三十歳以上ニシテ五年以上高等行政官ノ職ヲ奉シタル者若クハ裁判官ノ職ヲ奉シタル者ヨリ內閣總理大臣ノ上奏ニ依リ任命セララル、モノトス

書記ハ長官之ヲ判任ス

第四條 長官及評定官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

一 公然政事ニ關係スルコト

二 政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ衆議院議員府縣郡市町村會ノ議員若クハ參事會員タルコト

三 兼官ノ場合ヲ除ク外俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就クコト

四 商業ヲ營ミ其他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ムコト



第五條 第六條ノ場合ヲ除ク外長官及評定官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラル、コトナシ

行政裁判所ノ長官又ハ評定官ヲ兼任スル者ハ其本官在職中前項ヲ適用ス

懲戒處分ノ法ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 長官及評定官身體若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ内閣總理大臣ハ行政裁判所ノ總會ノ決議ニ依リ其退職ヲ上奏スルコトヲ得

第七條 長官ハ行政裁判所ノ事務ヲ總理ス

長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其先ナル者之ヲ代理ス

第八條 長官ハ自ら裁判長トナリ若クハ評定官ニ裁判長ヲ命スルコトヲ得

部ヲ分ツノ必要アルトキハ其組織及事務分配ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條 行政裁判所ノ裁判ハ裁判長及評定官ヲ併セ五人以上ノ列席合議ヲ要ス但列席ノ人員ハ奇數ニ限ル若シ缺席ノ爲偶數トナリタルトキハ官等最モ低キ評定官ヲ議決ヨリ除ク官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其後ナル者ヲ除ク

議決ハ過半数ニ依ル

第十條 長官又ハ評定官ハ左ノ場合ニ於テ評議及議決ニ加ハルコトヲ得ス

一 裁判スヘキ事件自己又ハ父母兄弟姉妹若クハ妻子ノ身上ニ關スルトキ

二 裁判スヘキ事件一人ノ資格ヲ以テ意見ヲ述ヘタルモノ又ハ理事者代理者若クハ職務外ノ地位ニ於テ取扱ヒタルモノニ關スルトキ

三 裁判スヘキ事件行政官タルノ資格ヲ以テ其事件ノ處分又ハ裁決ニ參與シタルモノニ關スル

トキ

第十一條 前條ノ場合ニ於テ原告又ハ被告ハ原因ヲ説明シテ文書又ハ口頭ヲ以テ長官又ハ評定官ヲ忌避スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十二條 忌避若クハ除斥ノ原因タル事情ニ付キ長官又ハ評定官ヨリ申出アルトキ又ハ他ノ事由ヨリシテ長官又ハ評定官カ法律ニ依リ評議及議決ニ加ハルヲ得サルノ疑アルトキハ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十三條 行政裁判所ノ處務規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 行政訴訟ノ辨護人タルコトヲ得ルハ行政裁判所ノ認許シタル辯護士ニ限ル

第二章 行政裁判所ノ權限

第十五條 行政裁判所ハ法律勅令ニ依リ行政裁判所ニ出訴ヲ許シタル事件ヲ審判ス

第十六條 行政裁判所ハ損害賠償ノ訴訟ヲ受理セス

第十七條 行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

各省大臣ノ處分又ハ内閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

各省又ハ内閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第十八條 行政裁判所ノ判決ハ其事件ニ付キ關係ノ行政廳ヲ羈束ス

第十九條 行政裁判所ノ裁判ニ對シテハ再審ヲ求ムルコトヲ得ス

第二十條 行政裁判所ハ其權限ニ關シテハ自ら之ヲ決定ス

行政裁判所ト通常裁判所又ハ特別裁判所トノ間ニ起ル權限ノ爭議ハ權限裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第二十一條 行政裁判所ノ判決ノ執行ハ通常裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第三章 行政訴訟手續

第二十二條 行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ六十日以内ニ提起スヘシ六十日ヲ經過シタルトキハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ス但法律勅令ニ特別ノ規程アルモノハ此限ニ在ラス

訴訟提起ノ日限其他此法律ニ依リ行政裁判所ノ指定スル日限ノ計算並ニ災害事變ノ爲メ遷延シタル期限ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス

第二十三條 行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外行政廳ノ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止セス但行政廳及行政裁判所ハ其職權ニ依リ又ハ原告ノ願ニ依リ必要ト認ムルトキハ其處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第二十四條 行政訴訟ハ文書ヲ以テ行政裁判所ニ提起スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條 訴狀ハ左ノ事項ヲ記載シ原告署名捺印スヘシ

一 原告ノ身分、職業、住所、年齢

二 被告ノ行政廳又ハ其他ノ被告

三 要求ノ事件及其理由

四 立證

五 年月日

訴狀ニハ原告ノ經歷シタル訴願書裁決書並ニ證據書類ヲ添フヘシ

第二十六條 訴狀ニハ被告ニ送付スル爲ニ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十七條 行政裁判所ハ原告ノ訴狀ニ就テ審査シ若シ法律勅令ニ依リ行政訴訟ヲ起提スヘカラスアルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ其理由ヲ付シタル裁決書ヲ以テ之ヲ却下スヘシ

其訴狀ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ之ヲ改正セシムル爲メ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第二十八條 行政裁判所ニ於テ訴狀ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ被告ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシムヘシ

答辯書ニハ原告ニ送付スル爲メ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十九條 行政裁判所ハ必要ナリト認ムルトキハ其期限ヲ指定シテ原告被告交互ニ辯駁書及再度ノ答辯書ヲ差出サシムヘシ

第三十條 行政裁判所ハ訴狀及答辯書ノ附属文書ノ副本ヲ原告被告交互ニ送付スル代リニ所内ニ於テ之ヲ閱覽セシムルコトヲ得

第三十一條 行政裁判所ハ訴訟審問中其事件ノ利害ニ關係アル第三者ヲ訴訟ニ加ハラシメ又ハ第三者ノ願ニ依リ訴訟ニ加ハルコトヲ許可スルヲ得

前項ノ場合ニ於テハ行政裁判所ノ判決ハ第三者ニ對シテモ亦其効力ヲ有ス

第三十二條 行政官廳ハ其官吏又ハ其申立ニ依リ主務大臣ヨリ命シタル委員ヲシテ訴訟代理ヲ爲サシムルコトヲ得

代理者ハ委任狀ヲ以テ代人タルコトヲ證明スヘシ

第三十三條 行政裁判所ハ豫メ指定シタル期日ニ於テ原告被告及第三者ヲ召喚シテ審廷ヲ開キ口

頭審問ヲ爲スヘシ

原告被告及第三者ニ於テ口頭審問ヲ爲スコトヲ望マサル旨ヲ申立タル場合ニ於テハ行政裁判所ハ文書ニ就キ直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 審廷ニ於テハ原告被告及第三者ノ辯明ヲ聽クヘシ

審廷ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ得タル者ヨリ順次發言スヘシ

原告被告及第三者ハ事實上及法律上ノ點ニ就キ文書ニ盡サ、ル所ヲ補足シ又ハ誤謬ヲ更正シ若クハ新ニ證據ヲ提出シ及證書ヲ提示スルコトヲ得

第三十五條 主務大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ公益ヲ辯護スル爲メ委員ヲ命ジ審廷ニ差出スコトヲ得

行政裁判所ハ判決ヲ爲ス前ニ委員ヲシテ意見ヲ陳述セシムヘシ

第三十六條 行政裁判所ノ對審判決ハ之ヲ公開ス

安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリ又ハ行政廳ノ要求アルトキハ行政裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第三十七條 公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ退カシムルノ前之ヲ言渡ス

第三十八條 行政裁判所ハ原告被告及第三者ニ出廷ヲ命ジ並ニ必要ト認ムル證據ヲ徵シ證人及鑑定人ヲ召喚シ審問ニ應ジ證明及鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

證人又ハ鑑定人トシテ審問ニ應ジ證明及鑑定ヲ爲スヘキ義務ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス其義務ヲ盡サ、ル場合ニ於テ處分スヘキ科罰ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

行政裁判所ハ口頭審問ニ於テ證據ノ手續ヲ爲シ又ハ評定官ニ委任シ若クハ通常裁判所又ハ行政廳ニ囑託シテ之ヲ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十九條 行政裁判所ニ於テ審問中ノ事件ニ關シ民事上ノ訴訟起ルコトアリテ通常裁判ノ確定ヲ待ツノ必要アリト認ムルトキハ其審判ヲ中止スルコトヲ得

第四十條 審問手續ニ關スル故障ノ申立ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

第四十一條 召喚ノ期日ニ於テ原告若クハ被告若クハ第三者出廷セサルコトアルモ行政裁判所ハ其審判ヲ中止セス

原告被告及第三者共ニ出廷セサルトキハ行政裁判所ハ審問ヲ行ハス直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 裁判宣告書ハ理由ヲ付シ裁判長評定官及書記之ニ署名捺印シ其謄本ニ行政裁判所ノ印章ヲ捺シ之ヲ原告被告及第三者ニ交付スヘシ

行政訴訟ノ文書ニハ訴訟用印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第四十三條 行政訴訟手續ニ關シ此法律ニ規程ナキモノハ行政裁判所ノ定ムル所ニ依リ民事訴訟ニ關スル規程ヲ適用スルコトヲ得

第四章 附則

第四十四條 此法律ハ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

第四十五條 第二十條第二項ノ權限爭議ハ權限裁判所ヲ設クル迄ノ間樞密院ニ於テ之ヲ裁定ス

裁定ノ手續ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第四十六條 従前ノ法令ニシテ此法律ト牴觸スルモノハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十七條 此法律施行ノ前既ニ行政訴訟トシテ受理シ審理中ニ係ルモノハ仍従前ノ成規ニ依リ處分スヘシ

○行政裁判所處務規程 明治廿三年八月廿九日 勅令第九十二號

朕行政裁判所處務規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政裁判所處務規程

第一條 行政訴訟各事件ノ掛評定官ハ行政裁判所長官ノ指定ニ依ル

第二條 行政裁判法第八條ニ依リ評定官ヲシテ裁判長ヲラシムルトキハ同法第七條第二項ノ順序ニ從ヒ之ヲ命スヘキモノトス

第三條 裁判長ハ一事件毎ニ審判準備ノ爲メ掛評定官中ノ一名若ハ二名ニ專理員ヲ指命スルコトヲ得

第四條 裁判長行政裁判法第三十八條第二項ノ場合ニ於テ科罰ヲ言渡シタルトキハ書記ヲシテ訴訟ノ記録ニ之ヲ記入セシム

第五條 毎年七月十一日ヨリ九月十日マデノ間ハ行政裁判所ニ於テ緊急ノ事項ト認ムルモノ、外既ニ著手シタル訴訟ヲ中止シ並ニ新ナル訴訟ニ著手セス

第六條 行政裁判所ノ總會議ハ評定官總員三分ノ二以上列席スルニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得

第七條 總會議ノ議事ハ長官之ヲ整理ス若シ長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス

第八條 行政裁判所ハ訴訟ノ呼出狀及其他ノ書類ヲ使丁若ハ郵便ヲ以テ送達シ又ハ通常裁判所ニ囑託シテ送達セシムルコトヲ得

第九條 行政裁判所ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ其職權ニ屬スル事件ニ付告示ヲ發スルコトヲ得

第十條 行政裁判所長官ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ事務取扱ノ順序方法ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得  
書記ノ職務ニ關スル規程ハ行政裁判所之ヲ定ム

○行政裁判所評定官ノ員數並書記ノ員數及職務ノ件

明治廿三年六月廿八日 勅令第九十一號

朕行政裁判所評定官ノ員數並書記ノ員數及職務ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 行政裁判所評定官ノ定員ハ十一人トス

行政裁判所書記ノ定員ハ十五人トス

第二條 行政裁判所書記ハ行政裁判法其他法律勅令ニ於テ特定シタル事務ヲ取扱フ

第三條 行政裁判所書記ハ往復會計記録其他庶務ニ從事ス

第四條 行政裁判所書記ハ行政裁判所長官ノ命令ニ從フ  
審判ニ關シテハ裁判長ノ命令ニ從フ

○行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件 明治二十三年十月九日 法律第六號

朕行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

- 一 海關稅ヲ除ク外租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件
- 二 租稅滯納處分ニ關スル事件
- 三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
- 四 水利及土木ニ關スル事件
- 五 土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル事件

○訴願法 明治二十三年十月九日 法律第百號

朕訴願法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

訴願法

第一條 訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付之ヲ提起スルコトヲ得

- 一 租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件
- 二 租稅滯納處分ニ關スル事件
- 三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
- 四 水利及土木ニ關スル事件
- 五 土地ノ官民有區分ニ關スル事件
- 六 地方警察ニ關スル事件

其他法律勅令ニ於テ特ニ訴願ヲ許シタル事件

第二條 訴願セントスル者ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シ直接上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

訴願ノ裁決ヲ受ケタル後更ニ上級行政廳ニ訴願スルトキハ其裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ經由スヘシ

第三條 各省大臣ノ處分ニ對シ訴願セントスル者ハ其省ニ之ヲ提起スヘシ

行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件 訴願法

第四條 裁判所ノ裁判各省ノ裁決及第二條第三項府縣參事會ノ裁決ヲ經タルモノハ其事件ニ付更ニ訴願スルコトヲ得ス

第五條 訴願ハ文書ヲ以テ之ヲ提起スヘシ

第六條 訴願書ノ侮辱誹毀ニ涉ルモノハ之ヲ受理セス

第六條 訴願書ハ其不服ノ要點理由要求及訴願人ノ身分職業住所年齢ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

第七條 訴願書ニハ證據書類ヲ添ヘ並下級行政廳ノ裁決ヲ經タルモノハ其裁決書ヲ添フヘシ

第七條 多數ノ人員共同シテ訴願セントスルトキハ其訴願書ニ各訴願人ノ身分職業住所年齢ヲ記載シ署名捺印シ其中ヨリ三名以下ノ總代人ヲ選ヒ之ニ委任シ總代委任ノ正當ナルコトヲ證明スヘシ

第八條 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第八條 行政處分ヲ受ケタル後六十日ヲ經過シタルトキハ其處分ニ對シ訴願スルコトヲ得ス

第九條 行政廳ノ裁決ヲ經タル訴願ニシテ其裁決ヲ受ケタル後三十日ヲ經過シタルモノハ更ニ上級行政廳ニ訴願スルコトヲ得ス

第十條 行政廳ニ於テ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

第九條 法律勅令ニ依リ訴願ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ之ヲ却下ス

第十條 訴願書ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得

第十條 郵便遞送ノ日數ハ第八條ノ訴願期限内ニ之ヲ算入セス

第十一條 第二條第一項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ十日以内ニ辯明書及必要文書ヲ添ヘ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ

第十二條 第二項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ三日以内ニ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ

第十三條 第二項ノ場合ニ於テ訴願書ヲ發送スルトキ亦前二項ノ例ニ依ルヘシ

第十四條 訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外行政處分ノ執行ヲ停止セス但行政廳ハ其職權ニ依リ又ハ訴願人ノ願ニ依リ必要ナリト認ムルトキハ其執行ヲ停止スルコトヲ得

第十五條 訴願ハ口頭審問ヲ爲サス其文書ニ就キ之ヲ裁決ス但行政廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ得

第十六條 訴願ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其理由ヲ付スヘシ訴願ヲ却下スルトキ亦同シ

第十七條 訴願ノ手續ニ關シ他ノ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノハ各其規程ニ依ル

附則

第十八條 明治十五年五月二十號第五十八號布告請願規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九條 此法律施行ノ前請願規則ニ依リ受理シタル請願ハ仍其規則ニ依リ之ヲ處分ス

第二十條 請願規則ニ依リ下級行政廳ノ指令ヲ受ケタル者訴願スルヲ得ヘキ場合ニ於テ更ニ訴願セントスルトキハ此法律ニ從ヒ其上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

ル事件ニシテ其處分又ハ指令ヲ受ケタル日ヨリ滿五年ヲ經過セサルモノニ對シテハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 行政廳ニ呈出スル請願ハ此法律ニ依ルノ限ニ在ラス

雜部

○公文式 明治十九年二月廿四日 勅令第壹號  
朕法律命令ノ格式ヲ制定スルノ必要ヲ認メ茲ニ公文式ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

公文式

第一 法律命令

- 第一條 法律勅令ハ上諭ヲ以テ之ヲ公布ス
- 法律ノ元老院ノ議ヲ經ルヲ要スルモノハ舊ニ依ル
- 第二條 法律勅令ハ内閣ニ於テ起草シ又ハ各省大臣案ヲ具ヘテ内閣ニ提出シ總テ内閣總理大臣ヨリ上奏裁可ヲ請フ
- 第三條 法律及一般ノ行政ニ係ル勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ主任大臣ト俱ニ之ニ副署ス其各省專任ノ事務ニ屬スルモノハ主任大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス(二十年勅令第百三十九號ヲ以テ改正)
- 第四條 内閣總理大臣及各省大臣ハ法律勅令ノ範圍内ニ於テ其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律勅令ヲ施行シ又ハ安寧秩序ヲ保持スル爲メニ閣令又ハ省令ヲ發スルコトヲ得
- 第五條 閣令ハ内閣總理大臣之ヲ發シ省令ハ各省大臣之ヲ發ス
- 第六條 閣令ハ年月日ヲ記入シ内閣總理大臣之ニ署名ス
- 第七條 省令ハ年月日ヲ記入シ主任大臣之ニ署名ス
- 第八條 各官廳一般ニ關スル規則ハ内閣總理大臣之ヲ定メ各廳處務細則ハ其主任大臣之ヲ定ム

第九條 内閣總理大臣及各省大臣ノ所轄官吏及其監督ニ属スル官吏ニ違スル訓令モ亦第六條第七條ノ例ニ依ル

第二 布告

第十條 凡ソ法律命令ハ官報ヲ以テ布告シ官報各府縣廳到達日數ノ後七日ヲ以テ施行ノ期限トナス但官報到達日數ハ明治十六年五月二十六日第十四號布達ニ依ル

第十一條 天災時變ニ依リ官報到達日數内ニ到達セサルトキハ其到達ノ翌日ヨリ起算ス

第十二條 北海道及沖繩縣ハ官報到達日數ヲ定メス現ニ道廳又ハ縣廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算ス

鳴地ハ所轄郡役所ニ官報ノ到達シタル翌日ヨリ起算ス

第十三條 法律命令ノ發布ノ當日ヨリ施行セシムルコトヲ要シ又ハ特ニ施行ノ日ヲ掲ケタルモノハ第十條第十一條第十二條ノ例ニ依ラス

第三 印璽

第十四條 國璽御璽ハ内大臣之ヲ尙藏ス

國璽御璽ハ親署ノ後内大臣之ヲ鈴ス

第十五條 法律勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈴ス

第十六條 國書條約批准外國派遣官吏委任狀在留各國領事證認狀及三等以上勳章ノ勳記ハ親署ノ後國璽ヲ鈴ス

第十七條 勅任官ノ任命ハ其辭令書ニ御璽ヲ鈴シ奏任官ノ任命ハ其奏薦書ニ御璽ヲ鈴ス

○命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件 明治二十三年九月十八日 法律第八十四號

朕命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

命令ノ條項ニ違犯スル者ハ各其ノ命令ニ規定スル所ニ從ヒ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

○省令廳令府縣令及警察令ニ關スル罰則ノ件 明治二十三年九月十八日 勅令第二百八號

朕省令廳令府縣令及警察令ニ關スル罰則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 各省大臣ハ法律ヲ以テ特ニ規定シタル場合ヲ除クノ外其ノ發スル所ノ省令ニ二十五圓以内ノ罰金若ハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第二條 地方長官及警視總監ハ其ノ發スル所ノ命令ニ十圓以内ノ罰金若ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件  
省令廳令府縣令及警察令ニ關スル罰則ノ件  
北海道ニ施行セサル法律  
建白書上呈方



十九年一月第一號  
 布告ヲ以テ兩府一號  
 觀望三縣ヲ廢シ  
 更ニ北海道廳ヲ置

○北海道ニ施行セラル法律 明治十五年二月九日太政官布告  
 第九號  
 今般北海道ニ函館札幌根室ノ三縣ヲ被置候處法律規則ノ從前北海道ニ施行セラルモノハ當分ノ内  
 仍ホ從前ノ通タルヘシ

○建白書上呈方 明治八年十一月廿五日太政官  
 布告第七十八號  
 諸建白書元老院へ可差出旨本年四月第六十八號ヲ以布告候處自今立法ニ關スルモノハ元老院へ其他  
 ハ主任ノ廳へ可差出尤訴訟ニ涉ル事件ニ於テハ成規ノ手續ヲ示シ本人へ可下戻候條此旨布告候  
 事  
 但東京ノ外各地方ノ人民ハ管轄廳へ差出該廳ヨリ本文同様主任ノ廳へ轉送可致候事

府	東京	京都	大阪	神奈川	兵庫	長崎	新潟	茨城	三重	愛知	静岡	山梨	岐阜	宮城	岩手	青森	山形	秋田
市制施行地	東京	京都	大阪	横濱	神戸	長崎	新潟	水戸	津	名古屋	静岡	甲府	岐阜	仙台	盛岡	弘前	山形	秋田
府	福井	石川	富山	鳥取	島根	岡山	廣島	山口	和歌山	徳島	高松	松山	高知	福岡	佐賀	熊本	鹿兒島	總計
市制施行地	福井	金澤	富山	鳥取	松江	岡山	廣島	赤間關	和歌山	徳島	高松	松山	高知	福岡	佐賀	熊本	鹿兒島	四十箇所

市制施行地

明治廿二年十二月調府縣別人口及戶數

府	縣	本籍人	現住人	現住戶數
東 京	東京	一、三二八、四四七	一、六二八、五五一	三六九、九五五
	神奈川	八七三、五七二	八八七、〇三二	一九一、〇〇六
	大府	一、二〇三、三八八	一、三三三、二二六	二七二、三三一
	兵庫	九〇三、六九七	九六〇、〇六九	一七八、〇五三
	長崎	一、五三三、三九九	一、五四一、七三一	三三三、七八八
	新潟	七四六、三三二	七六二、八二二	一四七、九〇五
	群馬	一、七二六、二四六	一、六八一、九八五	二九六、七二七
	茨城	一、〇七二、一一一	一、〇六九、一四四	一七五、九四九
	栃木	六八二、四八四	七三二、八六五	一三二、一四八
	奈良	一、一九五、〇九七	一、一八四、〇六二	二二〇、七四九
山 靜	山梨	一、〇一八、四五六	一、〇一四、三五四	一七三、五四四
	愛知	六八二、五七五	六九九、一三二	一一二、四六八
	三重	五〇二、六〇四	四九八、八七一	八八、六〇六
	三河	九二六、七三七	九一八、三六九	一七八、八三三
	岡崎	一、四六五、七五三	一、四五六、二九四	三三五、九六四
	知多	一、〇八六、五三六	一、〇七〇、八四一	一九七、三〇二
	岐阜	四三三、六九〇	四三二、七八一	八二、三〇六
	滋賀			
	長野			
	山梨			
府 <td>滋賀</td> <td>六七八、七四〇</td> <td>六七一、七八八</td> <td>一三五、〇〇一</td>	滋賀	六七八、七四〇	六七一、七八八	一三五、〇〇一
	岐阜	九三四、七二〇	九一八、四五六	一八〇、三六八
	長野	一、一三一、五〇五	一、一八八、六九〇	三三三、八四〇
	宮城	七四四、五五一	七六〇、三九一	一一一、九七〇
	福島	九三五、二二五	九三四、四四九	一五二、五六八
	岩手	六七三、三三三	六六七、一一五	一〇八、六二九
	青森	五四九、四一七	五三八、一一〇	八三、九〇四
	山形	七五七、六一一	七五〇、八四〇	一一五、五九七
	秋田	六九六、二七八	六九〇、一三三	一一八、二四六
	石川	六二五、二四八	六二〇、三三三	一一五、七三三
縣 <td>富山</td> <td>七六八、九三九</td> <td>七五一、六〇五</td> <td>一四四、八五六</td>	富山	七六八、九三九	七五一、六〇五	一四四、八五六
	島根	七六一、九二八	七四五、二四八	一五〇、三三四
	鳥取	四〇二、〇七六	三九九、〇六〇	七九、九九二
	岡山	七〇〇、二八二	六九五、七八二	一四九、〇二七
	廣島	一、〇七四、八八二	一、〇六八、〇八六	二二八、六九八
	山口	一、三三三、三七七	一、三三三、四七七	二八九、二六六
	山口	九三三、二二七	九三三、四九七	一九〇、〇一七
	山口			
	山口			
	山口			

明治廿二年十二月調府縣別人口及戶數

府縣	本籍人	現住人	現住戶數	府縣	本籍人	現住人	現住戶數
和歌山	六三六,五九九	六二七,三三三	一三八,四二七	佐賀	五六三,七〇一	五六〇,五九四	一〇三,六八一
德島	六八七,六一七	六八一,八九三	一三三,九七六	熊本	一〇五,〇七五	一〇五,二四七	二二,六〇九
香川	六三三,一一一	六六八,五四八	一三七,〇〇八	鹿兒島	四〇五,五四七	四二一,七三九	八三,〇七〇
愛媛	九二八,〇四九	九二二,七〇八	一八七,五六一	沖繩	一,〇〇二,一一三	九九八,一五三	二六,一四二
高知	五七四,四八七	五七五,八五二	一二七,三三三	北海道	三七八,八五二	三八一,二四二	七七,九〇三
福岡	一,三三三,五五八	一,三三三,五五一	三二二,四八一	計	二六九,九三四	三七八,一八八	七八,三三七
大分	七九三,五三五	七八八,六三五	一五三,二六二	合計	四〇〇,七二〇	四〇〇,六九二	七八四,〇八二

四

府縣管轄國郡及郡市町村數

府縣	管轄	國郡	郡	郡役所	市	町	村	町村役場
東京	武藏ノ内 東京市及佳原、東多摩、南豐島、北豐島、南足立、南葛飾ノ六郡、伊豆ノ内、七、山城丹後及丹波ノ内、船井、何廣、南桑田、河内和泉及攝津ノ内、大阪市及住吉、東成、西成島、相模及武藏ノ内、橫濱市、橋本、久良岐郡、筑西多摩、南多摩、北多摩ノ六郡	六	一八	一八	一	一四	一〇一	一〇八
京都	山城丹後及丹波ノ内、北桑田、天田ノ五郡、河内和泉及攝津ノ内、島下、豐島、能勢ノ七郡、相模及武藏ノ内、南多摩、北多摩ノ六郡	二七	二九	二九	二	一一	三〇〇	二七九
大阪	河内和泉及攝津ノ内、島下、豐島、能勢ノ七郡、相模及武藏ノ内、南多摩、北多摩ノ六郡	二七	二九	二九	二	一一	三〇〇	二七九
神奈川	相模及武藏ノ内、南多摩、北多摩ノ六郡、播磨、但馬、淡路、攝津ノ内、神戸市、八郡、英原、武、登岐、對馬及肥前ノ内、長崎市、西彼杵、東彼杵、北高來、南高來、南松浦、北松浦ノ六郡	一五	二四	二四	二	二六	二九四	二五四
兵庫	播磨、但馬、淡路、攝津ノ内、神戸市、八郡、英原、武、登岐、對馬及肥前ノ内、長崎市、西彼杵、東彼杵、北高來、南高來、南松浦、北松浦ノ六郡	三三	二七	二七	二	二六	四〇二	四二七
長崎	登岐、對馬及肥前ノ内、長崎市、西彼杵、東彼杵、北高來、南高來、南松浦、北松浦ノ六郡	一〇	一七	一七	一	一五	二八九	一九五
新潟	越後及佐渡	一八	一六	一六	一	四八	七六七	七九四
埼玉	武藏ノ内、東京府神奈川縣ノ及下總ノ内、中葛、上野	一八	一九	一九	一	四〇	三六九	三七四
群馬	武藏ノ内、東京府神奈川縣ノ及下總ノ内、中葛、上野	一七	二二	二二	一	三六	一七〇	二〇六
千葉	安房上總及下總ノ内、千葉、東葛飾、印旛下、道生、南相馬、常陸及下總ノ内、西葛飾、結城、岡田、豐田、北相馬ノ六郡	二二	一〇	一〇	一	四五	三三三	三五〇
茨城	安房上總及下總ノ内、千葉、東葛飾、印旛下、道生、南相馬、常陸及下總ノ内、西葛飾、結城、岡田、豐田、北相馬ノ六郡	一八	一四	一四	一	四〇	三三五	三七五
栃木	常陸及下總ノ内、西葛飾、結城、岡田、豐田、北相馬ノ六郡	九	八	八	一	二六	一四五	一七一
奈良	下野	一五	四	四	一	一一	一五一	一五四
三重	大和	二	一五	一五	一	一八	三二七	三三一
伊賀	伊賀、伊勢志摩及紀伊ノ内、南半、北半	二	一五	一五	一	一八	三二七	三三一

府縣管轄國郡及郡市町村數

五

府	縣	管轄	國	郡	郡役所	市	町	村	町村役場
愛知	知	尾張及三河	尾張	一	二	三	三	六	六
靜岡	岡	遠江、駿河及伊豆	遠江	三	三	三	三	三	三
山梨	梨	甲斐	甲斐	九	九	九	一	三	三
滋賀	賀	近江	近江	二	二	二	六	二	二
岐阜	阜	美濃及飛騨	美濃	二	二	二	六	九	九
長野	野	信濃	信濃	二	二	二	一	三	三
宮城	城	陸前、氣仙郡及磐城ノ内	陸前	二	二	二	二	一	一
福島	島	岩代及磐城ノ内	磐城	二	二	二	二	二	二
青森	森	陸奥	陸奥	二	二	二	二	二	二
山形	形	羽前及羽後ノ内	羽前	二	二	二	二	二	二
秋田	田	羽後	羽後	二	二	二	二	二	二
福井	井	若狹及越前	若狹	二	二	二	二	二	二
石川	川	加賀及能登	加賀	二	二	二	二	二	二
富山	山	越中	越中	二	二	二	二	二	二
鳥取	取	因幡及伯耆	因幡	二	二	二	二	二	二

府	縣	管轄	國	郡	郡役所	市	町	村	町村役場
島根	根	出雲、石見及隱岐	出雲	二	二	二	二	三	三
岡山	山	美作、備前及備中	美作	二	二	二	二	三	三
廣島	島	備後及安藝	備後	二	二	二	二	三	三
山口	口	周防及長門	周防	二	二	二	二	三	三
和歌山	山	紀伊	紀伊	二	二	二	二	三	三
徳島	島	阿波	阿波	二	二	二	二	三	三
香川	川	讃岐	讃岐	二	二	二	二	三	三
愛媛	媛	伊豫	伊豫	二	二	二	二	三	三
高知	知	土佐	土佐	二	二	二	二	三	三
福岡	岡	筑前、筑後及豊前ノ内	筑前	二	二	二	二	三	三
大分	分	豊後及豊前ノ内	豊後	二	二	二	二	三	三
佐賀	賀	肥前ノ内	肥前	二	二	二	二	三	三
熊本	本	肥後	肥後	二	二	二	二	三	三
宮崎	崎	日向	日向	二	二	二	二	三	三
鹿兒島	島	大隅、薩摩及日向ノ内	大隅	二	二	二	二	三	三
沖縄	繩	琉球	琉球	二	二	二	二	三	三
北海道	道	十一ヶ國	十一ヶ國	二	二	二	二	三	三

府縣管轄郡及市町村數

府	縣	管	轄	國	郡	郡	郡役所	市	町	村	町村役場
總計					八〇四	五二七	四〇	一一二九	一四三三四	一一五六二	

備考 本表ノ外東京ニ十五箇所京都ニ二箇所大阪ニ四箇所北海道ニ二箇所ノ區役所アリ但三府ノ區ハ特別市制ニ依リ北海道ノ區ハ郡區町村編制法ニ依ルモノナリ  
本表ノ町村役場ニハ町村制ヲ施行セザル地ニアル戸長役場ヲ合算ス

明治二十二年府縣別國稅地方稅每戶平均負擔額

府	縣	現住戶數	二十二年國稅徵收豫算額	每戶平均負擔額	二十二年地方稅徵收豫算額	每戶平均負擔額
東京	都	三五八四四三	一、七三三、一六三、一六九	四、八〇五	七三八、二七九、六六一	二、〇六〇
東京	京	一九一、八一九	一、四三三、一八五、五〇二	七、四九二	二九三、六七五、八六七	一、五三一
神奈川	川	二六七、三五九	二、三九三、六五九、二六九	八、九五三	五三三、八九二、三三四	二、〇〇四
兵庫	庫	一七五、九五四	一、一四四、八八三、二二一	七、〇七五	二四三、三六四、〇三三	一、三九四
長崎	崎	三二二、五三三	三、六六六、〇七三、三八四	一、一三三	四六〇、六四三、三三三	一、四七九
新加	馬	一四六、三三四	七、〇一〇、九五、〇六七	四、九三〇	一九八、七一六、二六五	一、三五九
群馬	玉	二九九、〇〇五	二、三四七、七八九、三七八	七、八五二	五二二、九九九、四四三	一、七四八
茨城	潟	一七五、九六一	二、〇五三、七五、一七二	一一、六七二	三三六、九四八、六六一	一、九二五
栃木	馬	一三三、四三〇	一、二二六、八四九、四四八	八、五七四	二七六、九二一、六一九	二、一〇七
茨城	葉	二二二、九三七	一、八七九、四八一、八五一	八、八二六	三三四、四一〇、五〇	一、五七〇
栃木	城	一七三、〇七三	一、七九九、四一五、〇六五	一〇、三九九	三二七、四四四、六四八	一、九〇二
奈良	木	一〇七、四六三	一、〇三三、一〇、九七一	一一、一九六	二二二、五五二、九一六	二、〇八〇
愛知	良	八八一、五七七	八、五七〇、八七、四四八	九、七三三	二二二、三四八、五三三	二、四〇九
三重	重	一八〇、五三四	一、九三三、七五〇、二六七	一〇、七〇一	二六五、三九二、九五六	一、四七〇
靜岡	知	三二六、八四六	二、九〇八、四九一、二五六	八、八九九	四四二、五四〇、六一八	一、三五四
靜岡	岡	一九六、七五七	一、六一四、六八六、三三八	八、二〇六	三三三、八一〇、三七四	一、七〇七

明治二十二年府縣別國稅地方稅每戶平均負擔額

明治二十二年度府縣別國稅地方稅每戶平均負擔額

府	縣	現住戶數	二十二年國稅徵收豫算額	每戶平均負擔額	二十二年地方稅徵收豫算額	每戶平均負擔額
山	山梨	八〇〇六九	六四三、五四六、四五一	八〇三七	二、六七九、二五三	三、二〇六
	滋賀	一三五、九八六	一、五二六、〇三一、八五三	一、一三三	二、四九〇、五九九	一、八〇八
	岐阜	一八一、五〇九	一、四四一、五二二、〇九六	七、九四二	三、五六七、四四九	一、七三九
	長野	三三、九六五	一、六九七、五四一、八三一	七、六四八	三、九六一、四二、九六九	一、七八五
	宮城	一一、〇九七	九、九三、五二七、一四九	八、九四三	三、〇八四、五九〇	二、七九八
	福島	一五、二六五	一、六四八、二六二、三二七	一〇、七九六	三、六一、五五二、六〇一	二、三六八
	茨城	一〇八、七四四	七、六〇、八六九、五二八	六、九九七	一、八五、九三、八〇七	一、七二〇
	岩手	八三、七四〇	七、二一、八二〇、七八五	八、六二〇	三、三三、五九七、九二二	二、六七〇
	青森	二五、八六三	一、三三、一三二、四〇九	一〇、五三九	三、一〇、四、九八六	二、一六六
	山形	二一、六四六	九、五七、五六八、一四八	八、二〇九	二、四四、四八三、五〇七	二、〇九六
秋田	二五、二四四	九、四六、八四六、三九二	八、二三五	二、四、八、九六、六九八	一、八六七	
石川	一四九、二一九	一、〇九四、四九八、二六六	七、三三九	三、二六、九、九三、〇三四	二、一八二	
富山	一四九、八八九	一、一九四、三三二、四四五	七、九六九	一、八八、五八七、四九五	二、三三九	
鳥取	八〇、九五七	六、四二、一八一、六六〇	七、九三三	二、六四、九九七、五四一	一、七七九	
島根	一四八、九八七	九、四四、八五二、二二三	六、三四二	四、一七、七〇五、五七六	一、八七五	
岡山	二六三、四一四	二、八〇、八、九〇〇、三三三	九、三七九	三、四、一、九二二、三三三	一、二九八	
廣島	一八八、四〇二	一、八二二、〇一七、七三〇	六、八七九	二、九一、八四七、九八六	一、五四九	
府	總計	七、八〇二、八二六	六、三三、七三、四、七五、三、七五	八、一六八	一、三、六三、五、三三、〇、五五	一、七九二

府	縣	現住戶數	二十二年國稅徵收豫算額	每戶平均負擔額	二十二年地方稅徵收豫算額	每戶平均負擔額
山	山梨	八〇〇六九	六四三、五四六、四五一	八〇三七	二、六七九、二五三	三、二〇六
	滋賀	一三五、九八六	一、五二六、〇三一、八五三	一、一三三	二、四九〇、五九九	一、八〇八
	岐阜	一八一、五〇九	一、四四一、五二二、〇九六	七、九四二	三、五六七、四四九	一、七三九
	長野	三三、九六五	一、六九七、五四一、八三一	七、六四八	三、九六一、四二、九六九	一、七八五
	宮城	一一、〇九七	九、九三、五二七、一四九	八、九四三	三、〇八四、五九〇	二、七九八
	福島	一五、二六五	一、六四八、二六二、三二七	一〇、七九六	三、六一、五五二、六〇一	二、三六八
	茨城	一〇八、七四四	七、六〇、八六九、五二八	六、九九七	一、八五、九三、八〇七	一、七二〇
	岩手	八三、七四〇	七、二一、八二〇、七八五	八、六二〇	三、三三、五九七、九二二	二、六七〇
	青森	二五、八六三	一、三三、一三二、四〇九	一〇、五三九	三、一〇、四、九八六	二、一六六
	山形	二一、六四六	九、五七、五六八、一四八	八、二〇九	二、四四、四八三、五〇七	二、〇九六
秋田	二五、二四四	九、四六、八四六、三九二	八、二三五	二、四、八、九六、六九八	一、八六七	
石川	一四九、二一九	一、〇九四、四九八、二六六	七、三三九	三、二六、九、九三、〇三四	二、一八二	
富山	一四九、八八九	一、一九四、三三二、四四五	七、九六九	一、八八、五八七、四九五	二、三三九	
鳥取	八〇、九五七	六、四二、一八一、六六〇	七、九三三	二、六四、九九七、五四一	一、七七九	
島根	一四八、九八七	九、四四、八五二、二二三	六、三四二	四、一七、七〇五、五七六	一、八七五	
岡山	二六三、四一四	二、八〇、八、九〇〇、三三三	九、三七九	三、四、一、九二二、三三三	一、二九八	
廣島	一八八、四〇二	一、八二二、〇一七、七三〇	六、八七九	二、九一、八四七、九八六	一、五四九	
府	總計	七、八〇二、八二六	六、三三、七三、四、七五、三、七五	八、一六八	一、三、六三、五、三三、〇、五五	一、七九二

明治二十年度府縣別區町村費每戶平均負擔額

府	縣	二十年十二月現住戶數	二十年區町村費決算	一戶當り負擔額
東京	東京	三五七、五〇七	一六三、六一六、三三六	〇、四五八
大坂	大坂	一九二、八五〇	六〇九、〇八三、一一四	三、一五六
京都	京都	二六五、七二四	四三〇、九八二、三三九	一、六三二
兵庫	兵庫	一七四、六九九	二七、九六九、八〇四	一、三四八
神奈川	神奈川	三二一、四四七	六〇一、〇七九、四一九	一、九三〇
長崎	長崎	一四五、八五六	二五五、〇八九、四五一	一、七四九
新潟	新潟	二九九、八六七	四九〇、五一六、一一一	一、六三六
群馬	群馬	一七四、四〇八	三七二、三七六、六八六	二、一三五
茨城	茨城	二二九、八一四	四二一、二五六、三四六	一、八六六
栃木	栃木	二二二、一八七	一七〇、一八三、九三三	〇、八〇二
茨城	茨城	一七〇、七五一	九一、九五二	一、四三四
奈良	奈良	一〇七、〇一八	一七、四九九	一、八四〇
三重	三重	八九、九六二	二、八九〇、〇三三	一、七三七
愛知	愛知	一七八、九八五	二、一八八、五五四	一、六三二
靜岡	靜岡	三三四、四三三	三九〇、三五一、八五五	一、一〇三
山梨	山梨	一九六、〇八九	三二八、八八三、七四七	一、六七七
		八〇、二二五	二二七、七六、三六八	二、六五二

明治二十年度府縣別區町村費每戶平均負擔額

府	二十一年十二月現住戸數	二十年區町村費決算	一戸當リ負擔額
滋賀	三五六一〇	二六六六九一・二六七	一九六七
岐阜	一七九、三五	二五三、八四〇・二九六	一四一七
長野	三三〇、四二二	四五〇、六九一・三五四	二〇四五
宮城	一〇九、三七七	四四三、一六三・五九八	四〇五二
福島	一五二、七五五	四八〇、三二七・六七〇	三、一四四
岩手	一〇九、〇九六	一八五、八八七・四六一	一、七〇四
青森	八一、九八四	三二二、三五九・五七〇	二、七〇〇
山形	一一五、二六二	三七六、三三三・二七一	三、二六四
秋田	一一六、〇〇一	一七〇、四七六・〇五二	一、四七〇
石川	一一四、六六四	三二七、六三三・三三四	一、九八五
富山	一五一、三七六	四三〇、四九〇・六一七	二、八四四
福井	一四九、三一一	三四三、八六三・七七二	二、三〇三
石川	九二、〇四九	一九一、九六九・七四六	二、三三〇
島根	一四八、九三五	二八二、〇七四・一三三	一、八九四
鳥取	二一九、八一八	三七〇、三五四・八八三	一、六八五
岡山	二六〇、八三三	三四八、〇八二・五五八	一、三三五
廣島	一八七、八四一	三四四、八七七・四六三	一、三〇四
山口	二二七、八七七	一六九、七三四・二〇五	一、三三七
徳島	三三二、八五二	一九一、八九一・八六一	一、四四四

一四

府	二十一年十二月現住戸數	二十年區町村費決算	一戸當リ負擔額
香川	一三五、六九七	一七七、四四四・一九三	一、三〇八
愛媛	一八二、三七五	二五四、九三〇・八八四	一、三九八
高知	一二七、三三八	一四一、三〇九・七三二	一、一〇九
福岡	二二八、〇七八	五四二、一一〇・七六二	二、四八六
大分	一五二、〇九五	一三〇、七九三・八二七	〇、七九四
佐賀	一〇六、〇六四	一九九、九九七・四六三	一、八八六
熊本	二二一、九六六	三三七、五八五・六五四	一、三三二
宮崎	八二、六八七	一〇三、六七〇・四五二	一、二六九
鹿兒島	一〇五、〇三三	一九四、五四二・一六七	〇、九四九
總計	七、六二七、三九三	一、二九九、七四九、〇〇六	一、七〇四

明治二十年度府縣別區町村費每戸平均負擔額

一五



明治二十二年國稅各目收入豫算額

科	目		稅額
	地	租	
田	田	田	三〇、八四一、〇一〇、三三三
	畑	畑	六八六、三二九、五五八
	郡	郡	二、六七五、一五五、七八二
	市	市	七、九八四、一四〇
	鹽	鹽	四〇、四二一、八七五
	鑛	鑛	一、四六六、七〇七
	池	池	二、五四七、八七八
	山	山	六、七四一、六六一、三三九
	雜	雜	一、九五〇、七〇九
	北	北	三、五八四、九一四、八
延	延	延	三、三三三、二七三、〇〇〇
	計	計	四、二四八、九八一、二四九
酒	釀	釀	二、九五五、九一五、一五〇
	蒸	蒸	二、四五一、九五、四六三
	再	再	一、六五一、九七八、八九一
	酒	酒	四、五三三、九八六、四五六
	酒	酒	六、七七二、四三三、〇〇〇
	計	計	一、四、四九七、四三八、一六〇
	印	印	一、二二四、三九五、二八三
	製	製	七、四七七、六八五、〇
	仲	仲	四、三三〇、五〇〇、〇
	小	小	一、四四、六〇六、〇〇〇
煙	營	營	二、六四八、八三三
	營	營	一、四八五、三三〇
	營	營	二、〇七三、三〇〇
	營	營	一、四九二、九〇五、五三六
	計	計	一、四九二、九〇五、五三六
草	出	出	一、四九二、九〇五、五三六
	計	計	一、四九二、九〇五、五三六

明治二十二年國稅各目收入豫算額

稅免賣牛馬	稅衡量度	
	權枰尺 計 衡 量 度 稅 稅 稅	
	牛馬賣買免稅 鑑札再渡及換手數料	
計	六八八三、三六六 一六九、八三三 六九〇〇、一九九	三〇六四七二 七〇九、三三二 一、二七四、二七八 二、二九〇、〇七一
總計	稅許免獵銃	
	職獵免許稅 遊獵免許稅 免狀再渡及換手數料	
北海	二六六、八五五七	四九、四八、二〇〇〇 七、一〇、〇〇〇 五、二二五〇
海道	二六六、八五五七	五、六四三、二五〇
水產	二六六、八五五七	五、六四三、二五〇
計	六三、七三四、七五〇、三七五	六三、七三四、七五〇、三七五

稅子菓	稅油醬		稅印券證		營 麵 營 業 稅	沖 繩 縣 酒 類 出 港 稅	科 目	
	製製 造造 營營 業業 稅稅		證 券 印 紙 稅 小 切 手 押 印 稅 手 形 用 紙 稅					
出仕營小卸製製 賣入業賣賣造製 鑑鑑鑑營營造造 札札札業業業 料料料稅稅稅	計 造 營 石 業 稅 稅		計 手 形 用 紙 稅					
五八三九、一〇、五三三	二、三四三、九〇〇 四、六六一、七五〇 一九、四五四、〇〇〇 一、三三三、一五〇〇 八、七五一、五〇〇 八、九〇四、六七五〇 三、四六八、三〇、二五三		二、二五二、三六〇 一、二五八、九二一、〇〇〇 五、六三四、〇、五〇〇 六、三〇六、二、八九六		五九七、八一、三、五〇〇 二、六二二、〇〇〇 一、二、六二八、六四六 六、三〇六、二、八九六	二六、一〇〇、〇〇〇 三六、九七五、〇〇〇		
株 式 取 引 所 稅	米 商 會 所 稅	稅 車		稅 船		稅 藥 賣		科 目
		荷牛人馬 計 車 車 車 車 稅 稅 稅 稅		遊 日 本 形 小 船 稅 日 本 形 大 船 稅 西 洋 形 風 帆 船 稅 蒸 汽 船 稅		營 業 鑑 札 料 營 業 紙 稅		
九〇、六一五、〇〇〇	六九、七六、一、六四三	五、六〇〇、八、八八四 三〇、四三三、二、四二二 七、〇五八、〇〇〇 二、九四〇、六、七四二 一九、二一八、五〇〇	二、五七三、五、六四六 七、八五、八、五〇〇 一、八一三、五、〇二六 五、七六〇、三、七五五 六、六四〇、六、六六〇 一、一〇七、三、一七五	四、三三、五、七、七、七、七 一、五、六、四、三、三、八 七、〇、八、七、五、一、〇、〇	三、五〇、一、三、七、四、七 七、〇、八、七、五、一、〇、〇			

明治廿二年度地方稅收入豫算

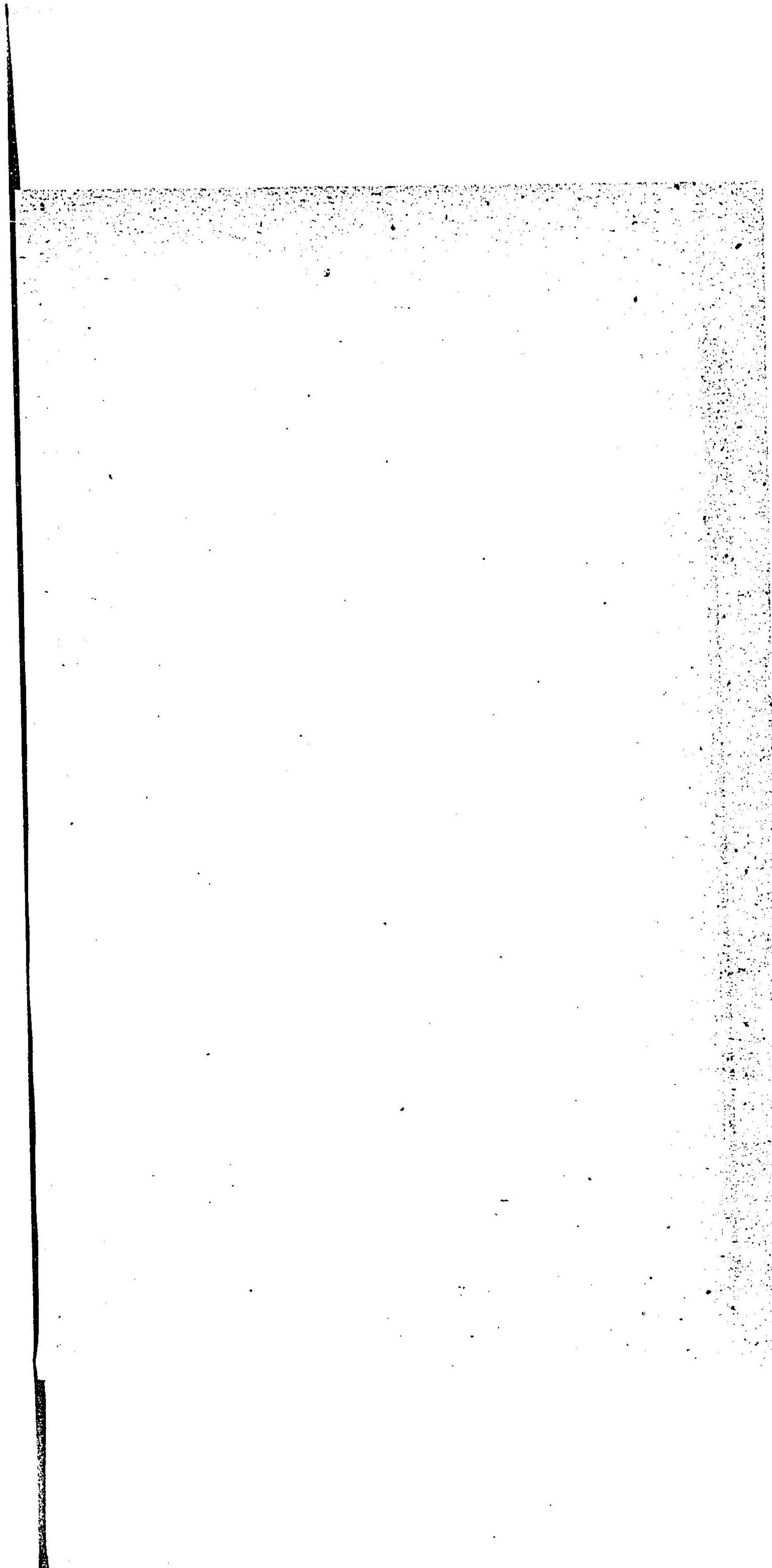
府縣	地租	營業稅	雜種稅	戶數	雜收入	繰越金	計	及國庫下渡補助	寄附金	合計
東京	六六三,四九四	一四四,六三七	九,九〇三	四二八,二五六	一六四,〇一三	一三〇,一三六	一,〇三〇,一三六	二八六,九三四	—	一,三一九,三三〇
京都	八一〇,五三三	一〇三,八七四	六,七八三	四〇九,九二五	五五,一六五	三六,八七一	三八五,七一	四六,一七六	—	四三二,八八七
大阪	一九五,〇五三	一四三,二二三	六,七二九	一三二,五七九	一四三,五七九	四三,五七九	七三三,〇五〇	四七,九〇六	—	七八〇,九五六
神奈川	一〇一,六七四	六〇,六九四	五,一一四	三二,八八二	九四,〇三二	二九,二七四	三六八,六六九	一九,八二九	—	三八九,四九八
兵庫	二四,六二二	一五,五三九	七,〇二八	五八,四五六	七四,三三三	四四,六七五	五七九,六四一	四五,一六四	—	六二四,八〇五
長崎	四七,八一九	六二,三九一	四,一六五	四七,八二二	四五,一〇五	一九,二四一	二六三,一六二	二七,九九九	—	二九〇,一六二
新潟	三三,三三三	七,七二四	四〇,五三三	八〇,六九〇	三三,三三三	七,七二四	八一八,六〇九	一〇,〇〇九	—	八二八,六一三
群馬	一四〇,九三九	九六,二四三	四〇,四七四	五九,一九三	四一,三三七	一八,七三三	三九七,〇六四	一九,九八五	—	四一七,〇四九
千葉	一四二,五〇八	五五,四七二	二七,八三三	五二,一〇九	三三,一〇〇	三九,九七	三九七,〇六四	一六,三〇二	—	四一三,三六六
茨城	一六四,二〇四	六六,四一七	四二,四五六	六二,一六二	三三,〇七七	三九,九七	三九七,〇六四	一六,三〇二	—	四一三,三六六
栃木	一三三,二四八	一〇,一八三	四三,〇〇七	四九,三七六	三三,〇〇九	二九,一〇六	三八七,八五九	一八,五五一	—	四〇六,三七七
奈良	一四七,七一四	五八,五六七	二五,四三六	二四,八三六	三六,四六七	三七,八	二六〇,三九八	一一,五三四	—	二七二,九三二
三重	二四,〇五七	二五,一四二	一一,四〇六	五二,七四三	九,〇九六	一,〇五七	二二二,五〇一	八,四一七	—	二三〇,九一八
愛知	二〇,四一五	五五,五二四	三八,九一八	五二,五三七	七九,二六〇	二七,二六八	三七一,九三三	一六,三〇五	—	三八八,二三七
静岡	二五,八七七六	七七,三三三	六二,七八五	四三,六四五	一一,八〇三	五,六六一	六三三,〇〇二	二二,〇五六	—	六五五,〇五八
山梨	一六五,六七〇	六七,〇五一	三九,七九四	六三,一九五	四二,五九八	三五,六八三	四一四,〇九〇	一八,八三三	—	四三二,九二三
山梨	一三八,四〇六	四三,一四二	一九,四七二	三三,七二〇	一六,〇二〇	二六,九二三	二七九,六六二	三八,八二九	—	三〇八,四九一

明治廿二年度地方稅收入豫算

明治廿二年地方稅收入豫算

總計	鹿兒島	宮崎	熊本	佐賀	大分	福岡	高知	愛媛	香川
六六八,二八九	一九一,五二四	一一六,六〇〇	一四一,四九六	一四一,二〇六	一六九,七八六	二〇九,五〇九	八七,四五三	一九七,八一〇	一〇九,五三九
二七八,〇七四	三三,六八八	二七,九二六	五九,四三〇	四九,五二五	四〇,一九九	八二,六〇七	二六,八七二	三九,七二二	二七,五二七
一四八,七〇五	一六,九二四	八,〇四四	二六,〇〇三	一五,〇九七	一九,八五〇	三三,二二八	二〇,一四八	二五,六二九	一八,七〇五
二六八,四五六	七,一六七	三三,五五二	六二,一八五	四八,八九二	三八,一四一	四一,八〇九	一七,四九七	四二,一八四	二四,七九五
一〇六,一五九	九,九五一	八,三四〇	二五,六三一	一三,四三七	一六,九〇〇	三六,九九三	四八,一四〇	三八,三四三	一九,九〇四
一八四,六二二	一五,四二〇	三〇,七	一五,二七八	一七,三五九	一八,八二二	四八,一八二	二〇,七二二	三三,八二七	四五,八六〇
二六八,八二四	三三,七六四	一九,五五九	三三,九〇三	二八,一五〇	三〇,三六八	四九,一四一	二二,〇八三	三七,七五五	二四,六三三
一三二,七七八	四〇,七六八	三三,三六〇	一八,四九七	三三,八四五	二六,九四五	一七,三三九	三〇,九七四	二四,七七一	一六,一五五
二〇四,九八三	三二,五八七	七,三三九	三〇,〇〇〇	五,〇〇〇	—	三,四三三	一八,一三九	三〇,八五八	九,六四一
一八三,九二〇	四〇,九二九	三三,二五八	三三,七三〇	三三,九八〇	—	三,〇六三	四七,二〇〇	四三,七三四	二七,二二六

府縣	地租割	營業稅	雜種稅	戶數割	雜收入	繰越金	計	國庫下渡	寄付金	合計
滋賀	一一二,〇九七	四四,三三三	四一,三三三	四八,二一八	四二,二二四	三三,三〇二	三三三,三三六	一五,五九五	—	三四八,八三二
岐阜	一五二,〇九七	六四,五五七	三五,一五三	六三,八六八	三七,九三二	五七,一九九	四〇〇,八〇六	一三,四七一	—	四一四,二七七
長野	一七四,四四六	一四六,三三三	五七,八三五	一七,三三八	四九,八五九	五八,一七八	五〇四,一七九	一一,〇三三	—	五一五,二一二
宮城	一七二,二八三	五二,一四七	二五,九〇九	六,一四八	五五,二六四	二〇,八九九	三八七,〇〇九	一八,七六五	—	四〇五,七七四
福島	一三六,一六一	六八,〇九七	二九,八六八	二七,四二七	四三,三〇一	一九,三三二	四四二,三三六	一七,八一〇	六〇〇	四四二,九三六
岩手	七二,三三八	四七,三六〇	四一,九七三	二四,二五七	一五,七八三	二〇,四二五	三三二,一四六	一〇,四三八	—	三四二,五八四
青森	一〇八,五〇〇	四四,八一七	一五,一〇〇	五五,一八一	一五,八二八	七,四四	二四〇,一七〇	一〇,五七三	—	二五〇,七四三
山形	一七四,八九三	三八,八八一	一四,九七〇	二二,二六二	二九,八七八	六,四七四	二八七,三五八	一三,九三五	—	三〇一,三六七
秋田	一六二,九五八	三〇,〇一一	一六,七五六	四二,〇四九	一四,一三九	二,四八五	二八三,二八九	三〇,〇三三	—	三一三,三二二
石川	二二五,二〇二	三三,七一	二七,九七九	四六,三三二	三三,八二八	—	三三〇,四四三	一〇,〇八九	—	三四〇,五三二
富山	一八八,三三八	五〇,八八八	二二,七六六	六五,一〇二	二二,二五六	三,四八二	二〇五,八〇九	七,八一八	—	二一三,六二七
島根	一三三,七九八	二一,〇〇〇	九,四八三	四四,三〇六	一三,七四〇	—	一五九,三九七	二九,五〇九	—	一八九,九〇六
鳥取	一六五,八九七	四三,三七七	一八,五七九	三七,一四四	二六,五五六	七,八三四	二九九,三八七	一九,三三五	—	三一九,七四二
岡山	二七七,〇八五	六二,六八〇	二五,七三三	五三,二二八	六〇,一一二	四〇,七七四	四三三,一三三	一七,八九二	—	四五〇,〇二五
廣島	一三三,四二二	一〇三,八四四	三七,五三〇	六六,二六六	一〇,一一一	二,五五九	三三三,一三三	一七,九八二	—	三四〇,一一五
山口	一三〇,三二七	七二,六四四	三七,三七七	五,一五〇	一九,四五六	三,八四八	二二六,三三四	三,七一一	—	二三〇,〇四五
和歌山	二二六,二八八	三八,二〇四	二四,六四三	七,七〇七	一七,六八九	二,四七三	二六三,三三四	九,三五九	—	二七二,八九八
徳島	一四八,四五六	五七,八〇五	二〇,九三一	三九,九〇三	二七,八二四	一三,一六六	三〇八,一八五	二〇,五五〇	—	三二八,七三五



# 明治二十一年度地方稅

府縣目	警察費		土木費		衛生及病院費		教育費		郡區廳市員給		救育費		浦役場	
	警察費	修繕費	土木費	區町村土木補助費	衛生及病院費	教育費	區町村教育補助費	郡區廳市員給	郡區廳市員給	救育費	浦役場	救育費	浦役場	
東京	七〇、八七八	八、二八五	一八、六二四	四、九四二	六、三三三	一八、七三三	三三、一五二	四、〇八一	一、六七一	二、九六六	一、六	二、九六六	一、六	
京都	一五五、六一〇	一、四四四	八、一五五	一、三〇八	一、一〇一	一〇、五七九	二、一五六	三、〇四	三、〇四	三、〇四	二、九	三、〇四	二、九	
大阪	二六五、六二五	七、五七六	九七、〇二八	一、五九八	九、一八七	二七、四三三	四、六一八	四、〇	九、三一六	四、〇	二、〇	九、三一六	四、〇	
兵庫	一一〇、二六二	一、一九六	二八、五三二	四〇、二五〇	七、八二〇	二、八九七	一、五三七	二、二五	二、二五	二、二五	一、〇	二、二五	一、〇	
奈良	一四一、一九五	七、九九九	一、五六四	三、七二五	五、六六七	二、九六六	三、〇六四	二、八七	二、八七	二、八七	一、〇	二、八七	一、〇	
新加	一一、四五二	一、六四一	四七、九四〇	八、四九一	一、三五五	一〇、七六九	三、一六六	三、一六六	三、一六六	三、一六六	一、〇	三、一六六	一、〇	
長崎	一〇九、八三〇	九、八三三	六三、六七七	二、九八八	四、四七三	七、四七一	一、八三三	一、八三三	一、八三三	一、八三三	一、〇	一、八三三	一、〇	
崎玉	九五、三三八	七、六七七	八八、〇七六	一〇、三六五	五、五〇三	二、二〇五	一、八三五	一、八三五	一、八三五	一、八三五	一、〇	一、八三五	一、〇	
茨城	九七、三五二	一、四六四	九八、六一一	五、〇〇〇	六、五二〇	一、七二二	二、六一二	二、六一二	二、六一二	二、六一二	一、〇	二、六一二	一、〇	
千葉	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
静岡	一一五、一四〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
愛知	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
三河	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
岐阜	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
長野	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
福宮	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
岩手	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
青森	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
山形	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
秋田	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
福島	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
石川	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
富山	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
島根	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
岡山	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
廣島	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
山梨	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
徳島	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
香川	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
愛媛	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
高知	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
福岡	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
大分	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
佐賀	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
熊本	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
鹿兒	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
宮崎	九二、九九〇	八、一三三	一六、三三九	四、〇〇〇	四、七三四	一、五八六	二、七二五	二、七二五	二、七二五	二、七二五	一、〇	二、七二五	一、〇	
總計	四、四三八、四九五	九六、三九八	一、八六五、一五七	六二、二八六	三、四二八、八六五	一、四三三、三九一	一、四三三、三九一	四、一三九、七二二	四、一三九、七二二	四、一三九、七二二	一、〇	四、一三九、七二二	一、〇	

國庫金下渡及補助並寄付金ハ合計ノ内ヨリ抽載セシモノナリ

地方税支出豫算

區廳 郡市員給 救育費 浦役場 諸建設費 勸業費 戶長以下 地方税 府縣廳 府縣監 特別費 豫備費 雜出 合計 國庫下渡 寄付金

Table with multiple columns containing numerical data for various categories like 救育費, 浦役場, 諸建設費, etc. The table is organized into rows and columns, with some cells containing dashes or specific values.

ナリ

廳府縣管轄國郡島嶼

京		東		府
島原笠小	島七豆伊	藏武		國
母父	大新神三青小八	南南北南東往		郡
島島	津宅ヶ丈	葛足豐豐多		
	島島島島島島	飾立島島摩原		
京		山		府
丹波丹	城		山	國
與加	何天船北南	相綴久宇紀乙葛愛		郡
謝佐	鹿田井田田	樂喜世都伊訓野宕		
大		都		府
泉和	津攝	後		國
日南和	能豐島島住東西	熊竹中		郡
根泉鳥	勢島下上吉成成	野野		
阪		河		府
内		河		國
讚交茨澁若河大高丹志		丹安古八錦石		郡
良野田川江内縣安北紀南		部市上部川		
川奈		神		府
模相	藏武	國		
津愛足足	淘大高録三	北南西都橘久		郡
久柄柄		多多多良		
井甲下上綾住座倉浦		摩摩摩築樹岐		

廳府縣管轄國郡島嶼



政府經營國郡島嶼

千			
總	下	總	上
海香南南下印東千	市夷天周望武山長	邑山新	
相植葛	原隅羽准陀射邊生柄	樂田田	
上取馬生旛飾葉			
茨		葉	
下	陸	常	房安
岡結	眞筑新河信行鹿多入那西東	長朝平安	厩
田城	壁波治内太方島賀慈珂城城	狹夷房	瑩
奈		木	枋
大		野	下
式平廣山添添	梁足安那鹽下芳上河	北猿西豐	
上群瀬邊下上	田利蘇須谷賀賀賀内	相葛	
三		良	
伊		和	
飯一安河奄鈴朝三員桑	吉宇忍葛葛高十字式		
高志濃曲藝鹿明重辨名	野智海下上市市陀下		
愛		重	
尾	伊紀	摩志	賀伊
海中葉丹西東愛	南北英答	伊名山阿	度多飯
東島栗羽井井知	牟牟	賀張田拜	會氣野

兵			
磨	播		津攝
赤揖揖神神飾飾印加加多加美明	有川菟武八		
穗西東西東西東南古西河東囊石	馬邊原庫部		
長		庫	
肥	路淡	波丹	馬但
南北東西	三津	多氷	二七朝養氣出美城
高高低彼彼	原名	紀上	方美來父多石含崎
來來杵杵			粟用
新		崎	
越		馬對	岐壹
東刈中南北古三東南西中北	下上	石壹	南北
頭魚魚魚	縣縣	田岐	松松
城羽沼沼沼志島原原原原原			浦浦
崎		瀨	
武		渡佐	後
榛幡大那賀兒秩横比高入新北	羽加雜	岩西中	頭頭
澤羅里珂美玉父見企麗間座立	茂茂太	船城城	
馬		玉	
野	群		總下
那佐北利吾確北南多綠片西南東	中北		南北男
勢	葛葛		崎崎
波位多根妻氷樂樂胡野岡馬多馬	飾飾		玉玉

城		宮		
城	磐	前	陸	
信伊亘刈柴栗登本杜桃遠玉志加黒宮名	下上			
夫具理田田原米吉鹿生田造田美川城取	水水			
島		福		
城	磐	代	岩	
行標檜磐磐菊田石西東	大	河	耶北南岩安安伊	
方葉葉城前多村川川川	白	白	會會	
手	巖			
前陸	中	陸		
氣北南北中東南西東西江膽西東稗柴北南	宇			
仙戸戸伊伊伊伊伊井井刺澤賀賀貫波手手	多			
形	山	森	青	
前	羽	奥	陸	奥陸
南東西西東最北西東南	三	下	上	北
賜賜賜川川上山山山山	戸	北	北	輕
福	田	秋		
前	越	中陸	後	羽
敦丹今南大坂吉足	鹿	雄	平	仙
賀生立條野井田羽	角	勝	鹿	北

靜		知		
河	駿	河	三	張
益志安有庵富駿	八	深	寶	南
津太倍渡原士東	名	美	飯	樂
山	岡			
甲	豆	伊	江	遠
東西東	田	君	那	賀
八山山	方	澤	賀	茂
代梨梨	玉	佐	名	上
賀	滋	梨		
江	近	梨		
高西伊東阪大愛神浦甲野栗滋	北	南	北	中
島井香井田上知崎生賀洲太賀	留	留	摩	摩
濃	美			
可加武郡山席本池大安不	上	多	海	下
野	長	阜		
下上植更北南東西下上	詠	小	北	南
高	高	安	安	筑
井井科級曇曇	摩	摩	那	那

山		島	
長	防	後	
美豐厚	吉佐都熊玖大	惠三奴三三三甲神品蓋安	
福浦狹	敷波濃毛珂島	蘇上可谿次奴石治田那	
德		山	和
波		伊	紀
麻阿板名海那勝名		東西日有伊那海名	
植波野西部賀浦東		婁婁高田都賀部草	
愛		香	
伊	岐	讚	
越桑周新字	豐三鶴阿多那小香山三寒大		三美
智村布居摩	田野足野度珂豆川田木川內		好馬
知		媛	
佐	豫		
香長吾高幡土	北南西東喜伊下上久溫和風野		
美岡川岡多佐	和和和和多豫穴穴米泉氣早間		
福			
筑	前		筑
御竹生	早志怡席那御夜下上穗嘉鞍遠宗柏		安
井野葉	長摩土田珂笠須座座波麻手賀豫屋		藝

因	山	富	川	石	井
	中	越	登	能	賀
法邑	彌射下婦上	珠鳳鹿羽	河石能江	大遠三	狹若
美美	波水川自川	洲至島昨	北川美沼	飯敷方	
島		取		島	
出		著	伯	幡	
飯大仁能意秋島		日會汗八八河		氣高智八八岩	
石原多義宇鹿根		野見入橋米村		多草頭東上井	
岡		根			
備		岐	隱	見	石
和磐赤津御		海知穩周		鹿美那邑安邇	
氣梨坂高野		士夫地吉		足濃賀智濃摩	
美		中		備	前
東西西大真		阿哲川上賀下後小淺窪都		兒上邑	
南北西		賀多上房陽道月田口屋宇		島道久	
條條庭島					
備		廣		山	
備		藝		安	
沼深世御		豐賀高山高沼佐安		久久勝英吉勝東	
隈津羅調		田茂田縣宮田伯藝		米米南北	
				條條南田野北條	

沖			
琉	摩		
眞 <sup>マ</sup> 東 <sup>トウ</sup> 兼 <sup>ケン</sup> 鳥 <sup>トウ</sup> 伊 <sup>イ</sup> 渡 <sup>ワタリ</sup> 座 <sup>ザ</sup> 知 <sup>チ</sup> 佐 <sup>サ</sup> 南 <sup>ナン</sup> 大 <sup>ダイ</sup> 眞 <sup>マ</sup> 豊 <sup>トウ</sup> 小 <sup>コ</sup> 風 <sup>フウ</sup> 平 <sup>ヘイ</sup> 嘉 <sup>カ</sup> 間 <sup>マ</sup> 風 <sup>フウ</sup> 和 <sup>ワ</sup> 見 <sup>ミ</sup> 壁 <sup>ツツ</sup> 平 <sup>ヘイ</sup> 城 <sup>シロ</sup> 島 <sup>シマ</sup> 屋 <sup>ヤ</sup> 敷 <sup>シ</sup> 味 <sup>ミ</sup> 念 <sup>ネン</sup> 敷 <sup>シ</sup> 原 <sup>ハラ</sup> 里 <sup>リ</sup> 志 <sup>シ</sup> 城 <sup>シロ</sup> 祿 <sup>ロク</sup>	硫 <sup>リウ</sup> 黒 <sup>コク</sup> 竹 <sup>チク</sup> 臥 <sup>フイ</sup> 口 <sup>コウ</sup> 黄 <sup>ワウ</sup> 蛇 <sup>ダ</sup> 島 <sup>シマ</sup> 島 <sup>シマ</sup> 島 <sup>シマ</sup> 島 <sup>シマ</sup> 島 <sup>シマ</sup>		
名 <sup>ナ</sup> 美 <sup>ミ</sup> 越 <sup>エツ</sup> 與 <sup>ユ</sup> 讀 <sup>ドク</sup> 勝 <sup>シヨウ</sup> 具 <sup>ク</sup> 北 <sup>キタ</sup> 中 <sup>チュウ</sup> 宜 <sup>イ</sup> 浦 <sup>ウラ</sup> 西 <sup>セイ</sup> 首 <sup>シュ</sup> 波 <sup>ハ</sup> 粟 <sup>ム</sup> 具 <sup>ク</sup> 玉 <sup>タマ</sup> 高 <sup>タカ</sup> 摩 <sup>マ</sup> 喜 <sup>キ</sup> 那 <sup>ナ</sup> 谷 <sup>コ</sup> 志 <sup>シ</sup> 野 <sup>ノ</sup> 名 <sup>ナ</sup> 國 <sup>クニ</sup> 志 <sup>シ</sup> 文 <sup>ブン</sup> 屋 <sup>ヤ</sup> 護 <sup>ゴ</sup> 里 <sup>リ</sup> 來 <sup>ライ</sup> 城 <sup>シロ</sup> 山 <sup>ヤマ</sup> 連 <sup>レン</sup> 川 <sup>カハ</sup> 谷 <sup>コ</sup> 城 <sup>シロ</sup> 灣 <sup>ヰ</sup> 添 <sup>ソフ</sup> 原 <sup>ハラ</sup> 里 <sup>リ</sup> 喜 <sup>キ</sup> 島 <sup>シマ</sup> 頭 <sup>カビ</sup> 城 <sup>シロ</sup> 嶺 <sup>リョウ</sup> 仁 <sup>ニ</sup> 武 <sup>ブ</sup>			
繩			
球			
仲 <sup>チウ</sup> 具 <sup>ク</sup> 多 <sup>タ</sup> 平 <sup>ヘイ</sup> 下 <sup>カ</sup> 砂 <sup>サ</sup> 與 <sup>ユ</sup> 石 <sup>シヨク</sup> 宮 <sup>ミヤ</sup> 大 <sup>ダイ</sup> 伊 <sup>イ</sup> 今 <sup>イマ</sup> 本 <sup>ホン</sup> 國 <sup>クニ</sup> 久 <sup>ク</sup> 大 <sup>ダイ</sup> 羽 <sup>ウ</sup> 金 <sup>キン</sup> 思 <sup>シ</sup> 志 <sup>シ</sup> 歸 <sup>キ</sup> 宜 <sup>イ</sup> 里 <sup>リ</sup> 川 <sup>カハ</sup> 長 <sup>チヤウ</sup> 長 <sup>チヤウ</sup> 地 <sup>チ</sup> 川 <sup>カハ</sup> 那 <sup>ナ</sup> 垣 <sup>ケン</sup> 長 <sup>チヤウ</sup> 濱 <sup>ヒナ</sup> 惠 <sup>ヱ</sup> 仁 <sup>ニ</sup> 部 <sup>ブ</sup> 頭 <sup>カビ</sup> 志 <sup>シ</sup> 味 <sup>ミ</sup> 地 <sup>チ</sup> 武 <sup>ブ</sup> 納 <sup>ナク</sup>			
北			
後	島	渡	振
美 <sup>ミ</sup> 古 <sup>コ</sup> 古 <sup>コ</sup> 岩 <sup>イハ</sup> 磯 <sup>イソ</sup> 歌 <sup>カ</sup> 島 <sup>シマ</sup> 霧 <sup>キリ</sup> 瀬 <sup>セ</sup> 太 <sup>タイ</sup> 與 <sup>ユ</sup> 久 <sup>ク</sup> 國 <sup>クニ</sup> 平 <sup>ヘイ</sup> 宇 <sup>ウ</sup> 内 <sup>ナイ</sup> 谷 <sup>コ</sup> 桑 <sup>サウ</sup> 牧 <sup>マク</sup> 都 <sup>ト</sup> 棚 <sup>テウ</sup> 櫓 <sup>ロ</sup> 尻 <sup>シラ</sup> 遠 <sup>エン</sup>	爾 <sup>ニ</sup> 檜 <sup>ヱ</sup> 松 <sup>マツ</sup> 龜 <sup>カメ</sup> 茅 <sup>チガハ</sup> 上 <sup>ウヘ</sup>		山 <sup>ヤマ</sup> 越 <sup>エツ</sup>
膽	狩	石	志
幌 <sup>ホウ</sup> 蛇 <sup>ダ</sup> 有 <sup>ユ</sup> 室 <sup>シツ</sup> 千 <sup>チ</sup> 別 <sup>ベツ</sup> 田 <sup>テン</sup> 珠 <sup>シュ</sup> 園 <sup>エン</sup> 歲 <sup>サイ</sup>	濱 <sup>ヒナ</sup> 厚 <sup>コウ</sup> 石 <sup>シヨク</sup> 札 <sup>サ</sup> 雨 <sup>アメ</sup> 上 <sup>ウヘ</sup> 樵 <sup>セウ</sup> 夕 <sup>セキ</sup> 空 <sup>クウ</sup>	志 <sup>シ</sup> 山 <sup>ヤマ</sup> 前 <sup>マヘ</sup> 田 <sup>テン</sup> 部 <sup>ブ</sup> 磯 <sup>イソ</sup>	余 <sup>ヨ</sup> 忍 <sup>ニン</sup> 高 <sup>タカ</sup> 小 <sup>コ</sup> 積 <sup>ツク</sup> 市 <sup>シ</sup> 路 <sup>ロ</sup> 島 <sup>シマ</sup> 樽 <sup>ソン</sup> 丹 <sup>タン</sup>

大		岡		
豐	前	豐	後	
南 <sup>ナン</sup> 北 <sup>キタ</sup> 大 <sup>ダイ</sup> 速 <sup>ソク</sup> 東 <sup>トウ</sup> 西 <sup>セイ</sup> 海 <sup>カイ</sup> 海 <sup>カイ</sup> 國 <sup>クニ</sup> 國 <sup>クニ</sup> 部 <sup>ブ</sup> 部 <sup>ブ</sup> 分 <sup>ブン</sup> 見 <sup>ミ</sup> 東 <sup>トウ</sup> 東 <sup>トウ</sup>	上 <sup>ウヘ</sup> 築 <sup>ツク</sup> 仲 <sup>チウ</sup> 京 <sup>キヤウ</sup> 田 <sup>テン</sup> 企 <sup>キ</sup> 毛 <sup>モウ</sup> 城 <sup>シロ</sup> 津 <sup>ツ</sup> 都 <sup>ト</sup> 川 <sup>カハ</sup> 救 <sup>クウ</sup>	三 <sup>サン</sup> 山 <sup>ヤマ</sup> 下 <sup>カ</sup> 上 <sup>ウヘ</sup> 三 <sup>サン</sup> 山 <sup>ヤマ</sup> 御 <sup>ゴ</sup> 池 <sup>チ</sup> 門 <sup>メン</sup> 妻 <sup>メウ</sup> 妻 <sup>メウ</sup> 猪 <sup>シウ</sup> 本 <sup>ホン</sup> 原 <sup>ゲン</sup>		
熊	賀	佐	分	
	前	肥	前	後
字 <sup>ジ</sup> 託 <sup>トク</sup> 飽 <sup>ボウ</sup>	藤 <sup>フジ</sup> 杵 <sup>キ</sup> 西 <sup>セイ</sup> 東 <sup>トウ</sup> 小 <sup>コ</sup> 三 <sup>サン</sup> 基 <sup>キ</sup> 養 <sup>ヤウ</sup> 神 <sup>シム</sup> 佐 <sup>サ</sup> 松 <sup>マツ</sup> 松 <sup>マツ</sup>	字 <sup>ジ</sup> 下 <sup>カ</sup>	日 <sup>ニチ</sup> 玖 <sup>ク</sup> 直 <sup>チキ</sup> 大 <sup>ダイ</sup>	
土 <sup>ツチ</sup> 麻 <sup>マ</sup> 田 <sup>テン</sup>	津 <sup>ツ</sup> 島 <sup>シマ</sup> 浦 <sup>ウラ</sup> 浦 <sup>ウラ</sup> 城 <sup>シロ</sup> 根 <sup>ネ</sup> 肆 <sup>シ</sup> 父 <sup>フ</sup> 崎 <sup>サキ</sup> 賀 <sup>カ</sup>	佐 <sup>サ</sup> 毛 <sup>モウ</sup>	田 <sup>テン</sup> 珠 <sup>シュ</sup> 入 <sup>イリ</sup> 野 <sup>ノ</sup>	
崎	宮	本		
向	日	後	肥	
兒 <sup>エ</sup> 東 <sup>トウ</sup> 西 <sup>セイ</sup> 北 <sup>キタ</sup> 南 <sup>ナン</sup> 北 <sup>キタ</sup> 宮 <sup>ミヤ</sup> 諸 <sup>シヨ</sup> 諸 <sup>シヨ</sup> 諸 <sup>シヨ</sup> 那 <sup>ナ</sup> 那 <sup>ナ</sup>	天 <sup>テン</sup> 球 <sup>クウ</sup> 韋 <sup>ヱ</sup> 入 <sup>イリ</sup> 下 <sup>カ</sup> 上 <sup>ウヘ</sup> 阿 <sup>ア</sup> 合 <sup>カフ</sup> 菊 <sup>キク</sup> 山 <sup>ヤマ</sup> 山 <sup>ヤマ</sup> 玉 <sup>タマ</sup> 益 <sup>イキ</sup> 益 <sup>イキ</sup>	草 <sup>クサ</sup> 磨 <sup>マ</sup> 北 <sup>キタ</sup> 代 <sup>ダイ</sup> 城 <sup>シロ</sup> 城 <sup>シロ</sup> 蘇 <sup>ソ</sup> 志 <sup>シ</sup> 池 <sup>チ</sup> 本 <sup>ホン</sup> 鹿 <sup>ロク</sup> 名 <sup>ナ</sup>		
湯 <sup>ユ</sup> 縣 <sup>ケン</sup> 縣 <sup>ケン</sup> 縣 <sup>ケン</sup> 珂 <sup>カ</sup> 珂 <sup>カ</sup> 崎 <sup>サキ</sup>				
庠				
薩	隅	大	向日	
日 <sup>ニチ</sup> 阿 <sup>ア</sup> 川 <sup>カハ</sup> 穎 <sup>エイ</sup> 掛 <sup>ケ</sup> 給 <sup>キョク</sup> 北 <sup>キタ</sup> 伊 <sup>イ</sup>	菱 <sup>シヨウ</sup> 取 <sup>ク</sup> 熊 <sup>クマ</sup> 肝 <sup>カン</sup> 南 <sup>ナン</sup> 始 <sup>シ</sup> 桑 <sup>サウ</sup> 西 <sup>セイ</sup> 東 <sup>トウ</sup> 大 <sup>ダイ</sup> 贈 <sup>ゾウ</sup> 贈 <sup>ゾウ</sup>	南 <sup>ナン</sup> 西 <sup>セイ</sup> 東 <sup>トウ</sup> 諸 <sup>シヨ</sup> 諸 <sup>シヨ</sup> 諸 <sup>シヨ</sup>	西 <sup>セイ</sup> 東 <sup>トウ</sup> 白 <sup>ハク</sup> 白 <sup>ハク</sup>	
置 <sup>チ</sup> 多 <sup>タ</sup> 邊 <sup>ヘン</sup> 娃 <sup>ヱ</sup> 宿 <sup>シュク</sup> 黎 <sup>レイ</sup> 佐 <sup>サ</sup>	刈 <sup>キ</sup> 謨 <sup>モ</sup> 毛 <sup>モウ</sup> 屬 <sup>ロク</sup> 隅 <sup>ク</sup> 長 <sup>チヤウ</sup> 原 <sup>ハラ</sup> 啖 <sup>タン</sup> 啖 <sup>タン</sup>	縣 <sup>ケン</sup>	杵 <sup>キ</sup> 杵 <sup>キ</sup>	
島				
薩	川	隅	大	摩
中 <sup>チュウ</sup> 平 <sup>ヘイ</sup> 誡 <sup>ケツ</sup> 惡 <sup>アク</sup> 賓 <sup>ヒン</sup> 訪 <sup>ホウ</sup> 石 <sup>シヨク</sup>	與 <sup>ユ</sup> 沖 <sup>チュウ</sup> 喜 <sup>キ</sup> 德 <sup>トク</sup> 大 <sup>ダイ</sup> 北 <sup>キタ</sup> 論 <sup>ロン</sup> 真 <sup>マコト</sup> 界 <sup>カイ</sup> 之 <sup>ノ</sup> 大 <sup>ダイ</sup>	谿 <sup>シ</sup> 鹿 <sup>ロク</sup> 出 <sup>デ</sup> 飯 <sup>イハ</sup> 南 <sup>ナン</sup> 薩 <sup>サク</sup> 高 <sup>タカ</sup> 兒 <sup>エ</sup> 伊 <sup>イ</sup>	高 <sup>タカ</sup>	高 <sup>タカ</sup>
島 <sup>シマ</sup> 島 <sup>シマ</sup> 島 <sup>シマ</sup> 島 <sup>シマ</sup> 島 <sup>シマ</sup>	島 <sup>シマ</sup> 島 <sup>シマ</sup> 島 <sup>シマ</sup> 島 <sup>シマ</sup> 隅 <sup>ク</sup>	山 <sup>ヤマ</sup> 島 <sup>シマ</sup> 水 <sup>スイ</sup> 島 <sup>シマ</sup> 佐 <sup>サ</sup> 摩 <sup>マ</sup> 城 <sup>シロ</sup>		



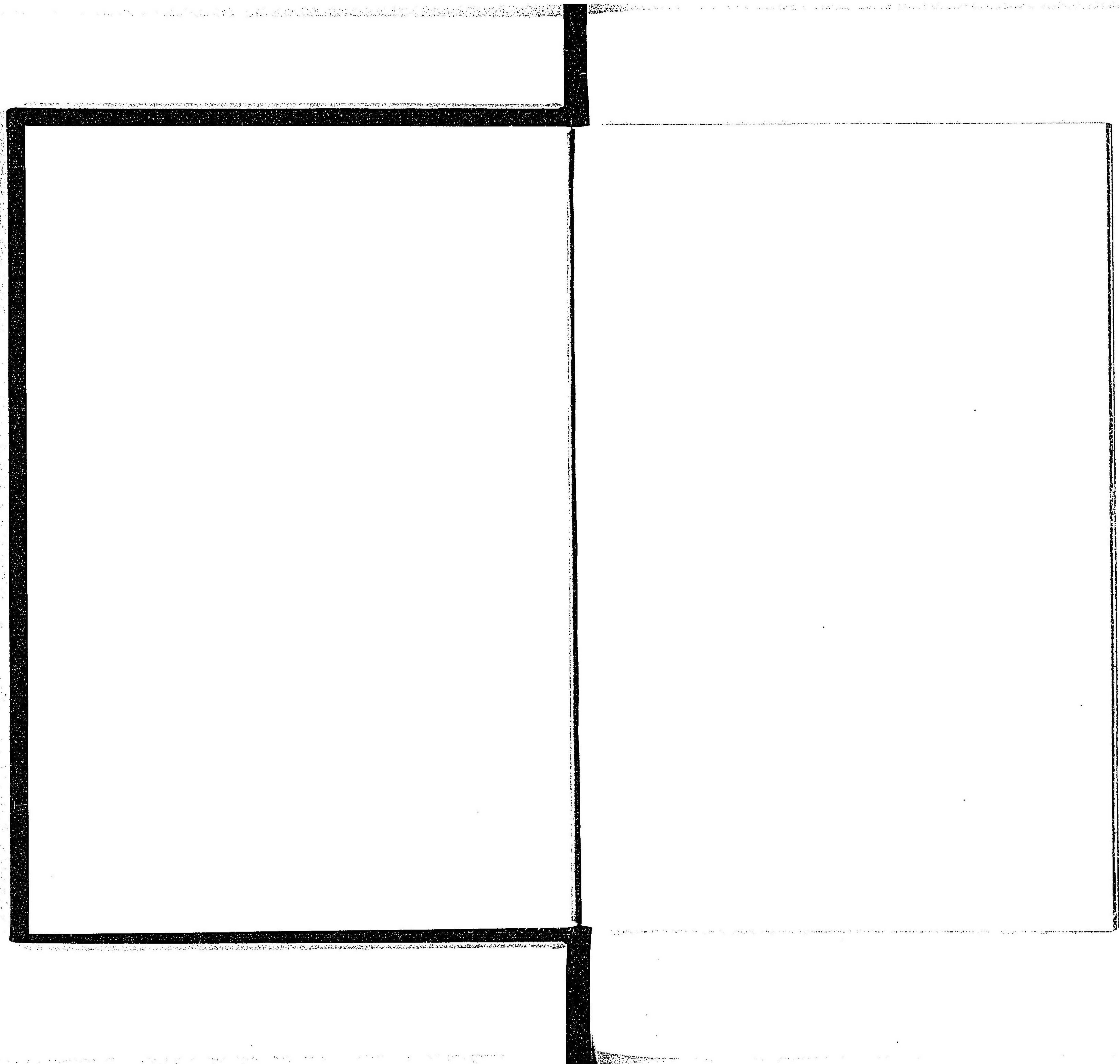
明治二十三年十二月十日出版

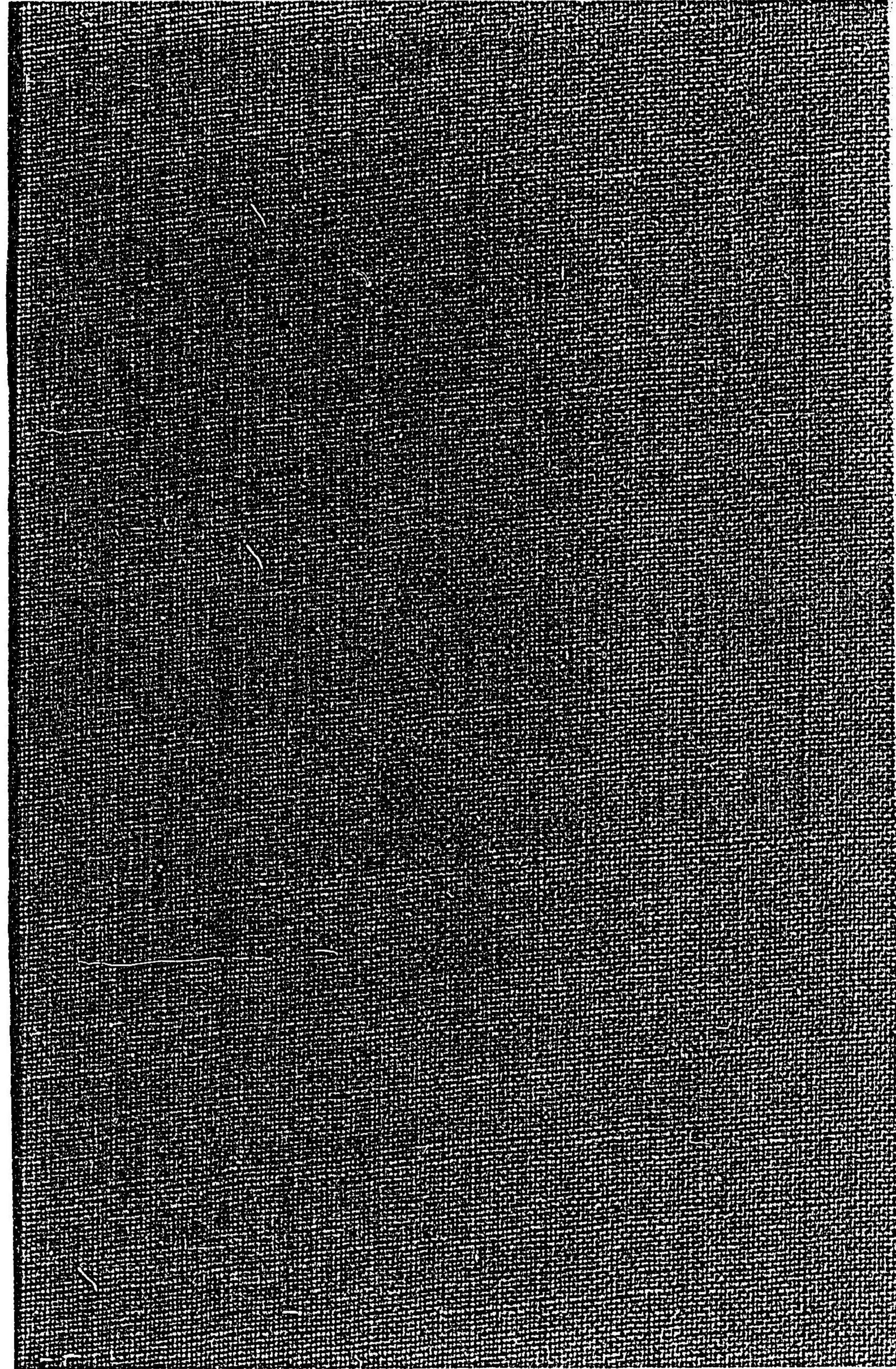
內務省總務局文書課

# + G29











031118-001-2

CZ-5-016

法規類抄

内務省総務局

M23-43

BBC-0928



